

# 學報

Kobe College Bulletin

NO. 183

2018. 7. 12

神戸女学院

学報委員会

## 院長就任の辞

院長 飯 謙

前院長の森孝一先生が2017年度末に任期満了で退任され、わたしが2018年度より第14代目の院長に就任いたしました。ここに皆様にご挨拶を申し上げます。創立者であるイライザ・タルカット先生、中等教育へと踏み出したヴァージニア・クラークソン先生、リベラルアーツ教育を提唱したエミリー・ブラウン先生、高等教育を基礎づけたスザン・ソール先生、岡田山移転を実現されたシャーロット・B・デフォレスト先生、畠中博先生、難波紋吉先生、有賀鐵太郎先生、小宮孝先生、そしてわたしが奉職後にご指導いただいた岡本道雄先生、城崎進先生、松澤員子先生、森孝一先生——これら尊敬する先生方と同じリストに名を載せていただくのは恐れ多いことです。まことに未熟な、いと小さき土の器であります、生徒・学生お一人お一人の健やかな学修と成長のために、また教職員が堅実に教育の業にあたることができますよう、微力を尽くします。皆様にはお支えとお祈りをくださいますようお願い申し上げます。

わたしは、1983年4月に大学文学部総合文化学科研究助手・チャップレン補として神戸女学院の一員となりました。その折りの『学報』に書き綴った挨拶文を改めて読み直しました。そこには、母の母校で働かせていただく偶然、自身の専攻分野である旧約学やヘブライズムへの関心を呼び起こされた書物の著者（有賀鐵太郎先生）が仕えた場に足を踏み入れる偶然、さらにその分野が学際的研究へと大きく舵を切る時代にリベラルアーツの伝統に身を置く偶然への驚きを述べ、その研究成果が学院の建学の精神や宗教活動の深化に生かされるよう努めるというこ



と、それを通して、人間による偶然と見える出来事の中に、神の必然とでも評せる現実を見いだせたらという願いが記されていました。

それらの言葉を十分に実現したとはとても申せませんが、1990年からの在外研究や数次にわたる研究費助成など、繰り返し学院・大学からのご支援をいただき、学的には一定の目標を達成することができたと感謝しています。1995年の阪神淡路大震災では復興への希望をともにしたことを始め、幾度かのカリキュラム改編や21世紀にふさわしい学内制度・施設の整備など、教職員が力を合わせる協働の尊さと喜びを身体に刻みつける機会も多数与えられてまいりました。それらから学ばされたのは、まず生徒・学生の皆さんがあなたとして身につけるべき力の体得を第一に考えるという優先順位の在処、そして、そ

こにキリスト教学校である神戸女学院の良質な伝統があるという認識です。わたしは、この良質な伝統とその重さを、神戸女学院に連なるあらゆる方々とともに愛し、語り、日々更新することを大切な仕事としてまいります。

神戸女学院が継承してきた伝統は永久標語「愛神愛隣」に語り込められています。その制定時期を厳密に特定することは現在のところできていませんが、創立者のお一人、ジュリア・ダッドレー先生が1880年に出版されたご著書『育幼艸（こそだてぐさ）』にも示唆されていますので、1875年の本学院開設から間もなくのことであったと考えられています。淵源は宣教師の先生方を派遣したアメリカンボードの精神性に遡ることができるでしょう。アメリカンボードは米国の会衆派教会を中心になって1810年に設立した海外宣教団体、会衆派はプロテstant・キリスト教の教派の一つです。会衆派はもともとは16世紀の英國における宗教改革を批判する中で誕生したセクトでした。このグループは迫害を受けたこともあって17世紀前半に新大陸への移住を敢行し、聖書の理念に基づく共同体形成を目指しました。それは指導者を頂点とする階層制の組織ではありません。牧師も信徒もキリスト教への理解を深めるために同一の地平に立つ交わりを心がけました。入植した地は言うなれば原野で、都市機能などありません。人々は神との約束として他者への誠実を誓い、共同体に必要と思われる自らの役割として考え、それを果たすよう努めました。入植者らは、いつしかラテン語で non sibi (「自分のためには、なく」、すなわち「他者のために」) というフレーズを合い言葉のように語ったと伝えられています。他者への善を実践的にとらえることを重視するキリスト教理解に立っていたと申せます。これがタルカット先生、ダッドレー先生をはじめ、初期の宣教師の方々が幼い頃から身を置いていた精神的な環境であり、今日も「愛神愛隣」の標語のもと、神戸女学院の校風となってわたしたちに働きかけています。

「他者のため」とは、主従関係をうちに含んだ滅私奉公を強いるスローガンではありません。会衆派的な「同一地平の交わり」の中で形成された共同体の在り方です。このような伝統は、言うまでもなく、

看板として掲げておくだけで継承されるものではありません。そこに連なる人が自覚的にその果実を探し出して収穫し、味わい、栄養として自らの身体の一部としていく作業を必要とします。

このように書いて、わたしはウイリアム・メレル・ヴォーリズの言葉を思い起こしました。彼は岡田山キャンパスの設計にあたって心に秘めた思いを書き残しています（「神戸女学院新校舎建築の要素」『めぐみ』第22号、1933年7月）。その強調点は次のように要約できます。これらの校舎群には生徒の精神的成长に寄与するようにとの祈りを込めた、所与のものを活用した、旧校地の既成観念からの脱却を試みた、協働の喜びを求めた、それを伝えるために美的感性を磨くさまざまな仕掛けを施した——彼は、これらの要素を、学舎に生活する生徒・学生・教職員が「意識的に努力して」探し出してほしいと結んでいます。これらの恵みは、準備もなく、拱手傍観していて手にできるものではない。互いに伝え合い、喜び合う共同体を前提とする、と。

学舎、そして建物に言い及びました。わたしが少しばかり学んできた古典ヘブライ語でこれに該当する語は〈ベート〉で、通例「家」と訳されます。あるとき旧約聖書のテクストを読みながら考えたのですが、(ここから書くことは辞典にはない、私的な読み込みです) この単語は建物本体ではなく、人が居住する場、さらには居住する人、また共同体を指す語ではないか。それゆえ、ベート・レヘム (ベツレヘム) とかベート・エール (ベテル) のように、地名に用いられることが珍しくない。その場に連なる人が互いを支え合う有機的な交わりを念頭に置く語である。そう思いますと、この語のギリシア語にあたるオイコスも、エコノミックスやエコロジーの接頭語になっているように、やはり人の生きる相補的で循環的な関係や環境を前提としています。

わたしどもの学舎も、共同体も、集う生徒・学生・卒業生・学外の関係者・教職員が息をし、生活し、成長するベートでありオイコスでありたく思います。そのために培ってきた伝統と共に育ちゆく一人として持てる力をささげてまいります。150周年を間近に控える神戸女学院が変わらないために、変化することにも大胆に向かい合ってまいります。どうぞ神戸女学院のためにお祈りください。

**KCCだより**

[Kobe College Corporation (KCC) was established in 1920 in Chicago, Illinois, as a non-profit organization by a group of Christian philanthropists. Its original purpose was to provide financial support for the relocation of the Kobe College campus from Kobe to Nishinomiya. Ever since, KCC has been a strong supporter of the school, both materially and spiritually, creating opportunities for cross-cultural educational experiences for students and teachers. In 2004, the organization added "Japan Education Exchange" to its original name as its activities expanded beyond support for the school. Kobe College has benefited greatly from the generous support of KCC-JEE for many years.]

**Remembrance of Rob Mason  
Member of the KCC-JEE Board of Directors**

President of KCC-JEE

Roberta Wollons



On November 15, KCC-JEE lost one of its long time board members, Rob Mason, after a brief illness. Rob joined KCC-JEE in the fall of 2005 and over the years served as chair of the Bryant Drake Guest Professorship and as co-president with Dave Therkelsen in 2012.

During the 2004–05 academic year, Rob was the Bryant Drake Guest Professorship in the Department of Biosphere Sciences at Kobe College, after which he was invited to serve on the Board of KCC-JEE. While on the Board, Rob chaired the

Bryant Drake professorship committee, among his other contributions. Rob received his BA degree in Geography and Environmental Studies at the University of Buffalo in 1977, his MA in Geography and Environmental Studies from the University of Toronto in 1979, and received his PhD in Geography from Rutgers University in 1986.

He joined Temple's Department of Geography and Urban Studies in 1986 and taught at Temple University Japan in Tokyo from 1993–1997. After returning to Temple's main campus in Philadelphia, he became director of the new program in Environmental Studies. Most recently, Rob taught at Temple Rome in 2016. His latest book is *Collaborative Land Use Management: The Quieter Revolution in Place-Based Planning* (2008). Other books include *Contested Lands: Conflict and Compromise in New Jersey's Pine Barrens* (1992) and the *Atlas of United States Environmental Issues* (1990).

He also wrote about metropolitan growth management, greenline parks, conservation land trusts, and national park management. He was interested in the evolving role of Japan's citizen environmental organizations at the national level, metropolitan land use and sprawl issues in China, and management of Japan's Shirakami Sanchi World Heritage Area.

Rob was a leader in his field and was serving a three-year term as Regional Councilor of the American Association of Geographers and had previously served as President of the Middle States Division of the AAG.

On May 6, there was a gathering of his friends and family at his home in New Jersey, where people shared stories and memories along with many of Rob's favorite foods from around the world. His brother wrote, "Like all of us, he began his life with only the love of his family. He finished his life with friends around the world, with their love for him and his deep love for each of them." Rob is survived by his brother Donald, his sister Linda, and their families.

Rob was an important presence on the KCC-JEE

board for his belief in international educational exchange, his deep commitment to student learning, and for his genial, kind spirited leadership on the Board. He was also a friend whom we miss. The Rob Mason Fund has been established to support the programs that were closest to his heart.

[コベ・カレッジ・コーポレーション (Kobe College Corporation) は、1920年に神戸女学院のキャンパス移転の資金援助のために設立された、アメリカ合衆国イリノイ州を本拠地とする非営利団体 (NPO) です。以来、日米両国の学生生徒並びに教員のために、さまざまな文化交流の機会を創出するなど、有形無形の力強い支援をおこない、神戸女学院はその活動によって大きな恩恵を受けてきました。2004年、KCC はその活動範囲を拡大するため、名前の後に “Japan Education Exchange” という副称を付け加えて、通称 KCC-JEEとなりました。今回は昨年11月15日に急逝なさったロバート・メーソン先生の追悼文をウォロンズ会長が寄せてくださいました。メーソン先生がシェイクスピア園で猫たちと遊んでいらしたお姿を覚えています。今年5月6日に彼の家で開催された偲ぶ会には神戸女学院からもメッセージを送りました。天上の平安をお祈りいたします。]

### 追悼 ロバート・メーソンKCC-JEE理事

KCC-JEE 会長  
ロベルタ・ウォロンズ

昨年11月15日、長年理事として KCC-JEE に貢献してくれたロバート・メーソン先生（愛称ロブ）が急な病のために亡くなりました。ロブは2005年の理事就任以来、神戸女学院大学に客員教員を派遣するプログラムの委員長を務め、更に2012年にはデーヴィッド・サーケルスン先生と共に会長を務めてくれました。

KCC-JEE の神戸女学院大学への客員教員派遣プログラムである Bryant Drake Guest Professorship によって、2004年4月から2005年3月まで、ロブは人間科学部人間科学科客員教授として神戸女学院大学で教鞭を執りました。そして、その縁で

KCC-JEE の理事になり、彼を派遣したプログラムの委員長になったのです。

ロブは1977年にバッファロー大学で地理環境学の学士号、1979年にトロント大学で地理環境学の修士号、1986年にラトガース大学で地理学の博士号を取得しました。1986年にテンプル大学の地理・都市研究学科のメンバーとなり、1993年から1997年まで東京のテンプル大学日本校で教えていました。フィラデルフィアにあるテンプル大学本校に戻ってからは、環境研究のための新しいプログラムのディレクターを務めました。2016年にはテンプル大学ローマ校でも教えていました。著書には新しいものから、『協調的土地区画整理事場に基づいた計画設計の穏やかな革命』(2000年)、『紛争中の土地—ニュージャージー州のパイン・バレンズにおける対立と妥協』(1992年)、『米国環境問題地図』(1990年) などがあります。

彼は大都市の拡張管理、緑地境界線、土地信託事業の保護、そして国立公園の管理運営などについても執筆しています。また、日本における市民環境団体の役割が国レベルへと進化していくことや、中国の大都市の土地利用と郊外への無秩序な拡散現象、世界遺産となった白神山地の管理運営にも関心を寄せていました。

ロブは専門分野においてはリーダー的存在でしたから、アメリカ地理学会の地域評議員や中米支部の会長も務めました。

今年の5月6日、ニュージャージー州の彼の家では友人や親族（ドナルドとリンダのきょうだいとその家族）の集まりが開かれ、ロブの好きな世界中の食べ物と一緒にたくさんの物語や思い出が共有されました。ドナルドは次のように書いています。「多くの人がそうであるように、彼はその人生を家族の愛情の中で始めました。彼はその人生を世界中のあちらこちらにいるたくさんの友人と深い友情の中で終えたのです。」

ロブは、国際教育交流の重要性を信奉し、学生の学習能力向上に深い関心を寄せ、温厚で親切で活発なリーダーシップを發揮することで、KCC-JEE の理事会において重きをなしていました。私たちは大切な友人を失ってとても寂しく思っています。KCC-JEE は彼の功績を讃えて、彼の志に最もふさわしいプログラムを支援するために、ロブ・メーソン基金を設立しました。

## 第14代院長就任式報告

2018年4月1日、神戸女学院第14代院長に飯 謙先生が就任され、4月27日(金)アッセンブリー・アワーに院長就任式がおこなわれた。来賓、教職員のほか学生も出席できた。出席者は約250名であった。

職務を全うすることを、心を尽し、精神を尽し、思いを尽して誓うという力強い言葉で始まった就任の辞の詳細は巻頭をご覧いただきたい。

野本真也同志社大学名誉教授の祝辞は神戸女学院大学のタグラインから始まった。「私はだれ?」これは何歳になっても大切なメッセージである。この本質的な問いかけが、聖書の中では、モーセが神からの召命を受けた時に発せられた言葉であり、イエスが弟子に問いかけた言葉であることを紹介された。それは神の召命を受けたことを意味し、あなたでなければならない使命が与えられているということである。「あなたはまだ、あなたを知らない」かもしれない。神は問い合わせに応えてくれる。この問い合わせに応えてくれる人も「私はまだ、私を知らない」。

続いてめぐみ会会長・浦邊純子氏、Kobe College Corporation 会長・Roberta Wollons 氏の祝辞（理事・伊藤栄子名誉教授代読）があり、最後に教職員を代表して斎藤言子学長がお祝いの言葉を贈られた。

最後の中野敬一学院チャプレンの祝禱、「恐れることはない、神が共におられる」という高らかな宣言は野本先生の祝辞への見事な応答となり、出席者一同の心に残る式の最後にふさわしい祈りであった。

式終了後、エミリー・ブラウン記念館めじラウンジで茶話会がおこなわれた。

(史料室)



就任の辞

## 愛校バザー報告

愛校週間の最後を締め括る愛校バザーは5月26日(土)、安定したお天気に恵まれ、今年も多くの来場者をお迎えして盛況のうちに開催されました。昨年、バザー前日に大テントのひとつが強風により倒壊するというハプニングがあり、検討の結果今年は中型テントを使用のうえ、第一体育館にも売店を配置する会場レイアウトで実施しました。また例年開場前の正門受付に長蛇の列ができ、近隣にまでご迷惑をおかけする状況になっていたため、今年は正門受付の場所を音楽館方向へ約70m 移動させました。昨年同様に受付開始前から多くの来場者が並ばれましたが、近隣への問題は解消されました。

開会礼拝に続く定刻の午前10時、飯謙新院長の開会宣言のもと滞りなく開会しました。神戸女学院バザーのお買い得商品の数々は定評となっており、今年も会場内は早くから購買意欲溢れるお客様で賑わっていました。あちらこちらに旧交を温める同窓生各世代の輪ができ、ホームカミングデーを心ゆくまで楽しんでおられる様子でした。神様のお守りのうちに、それぞれが学院への思いを新たにする爽やかな1日を分かち合い、無事閉会することができました。

最後になりましたが、早期より当日まで貴重な時間を捧げ、周到な準備のうちにご奉仕くださいましためぐみ会の皆様、中高部P.T.A.の皆様、また協力いただいた中高部及び大学の生徒・学生のみなさん、教職員、すべての関係者の尊いご奉仕に心から感謝申し上げます。

神戸女学院がひとつとなるこの愛校バザーがこれからも末永く続きますように。

(愛校バザー実行委員長)



愛校バザー風景

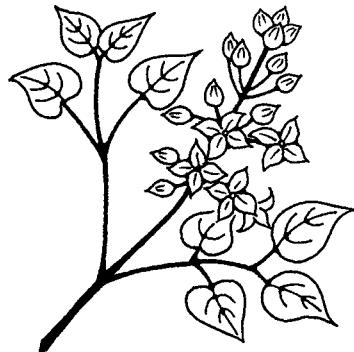
## 神戸女学院教育振興会寄付金

平素より神戸女学院教育振興会募金事業にご厚志  
ならびにご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

2017年度のご寄付実績を下記の通りご報告申し上  
げます。

| 区分          | 件数/冊数      | 金額(円)           |
|-------------|------------|-----------------|
| 現金によるご寄付    | 同窓生        | 673件 30,469,100 |
|             | 保護者(大学・中高) | 196件 15,015,000 |
|             | 役員(教職員を除く) | 22件 1,315,000   |
|             | 教職員・旧教職員   | 62件 5,264,200   |
|             | 法人・団体      | 25件 16,608,477  |
|             | 一般有志       | 15件 6,789,400   |
|             | 現金によるご寄付計  | 993件 75,461,177 |
| 吉本募金        | 15,566冊    | 1,196,902       |
| 教育振興会寄付金額合計 |            | 75,658,079      |

※複数の区分に該当される方の場合は、事務処理上  
妥当と思われる区分を選択しております。



## 神戸女学院2017年度決算報告 及び2018年度事業計画

2017年度に実施した事業の内容及び2018年度事業計画の詳細は、『2017年度事業報告書』に記載しております。以下の本学院ホームページをご覧ください。  
<http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/financial/index.html>  
 また、当該ホームページ上では、決算書も公開しておりますので、併せてご参照ください。

### I. 2017年度神戸女学院決算報告

#### 1. 事業活動収支計算書

事業活動収支をみると、事業活動収入計は52億91百万円、事業活動支出計は48億97百万円となり、基本金組入前当年度収支差額は3億93百万円となりました。当該収支差額は、教育活動収支差額1億94百万円、教育活動外収支差額1億42百万円、特別収支差額56百万円によって構成されています。(金額は単位未満を切捨表示しているため、内訳を加減算したものと合計額・差引額は一致しません。以下同じ。)

まず、教育活動収入（50億77百万円、前年度比+2億32百万円）をみると、学生生徒等納付金（41億31百万円、前年度比+1億6百万円）は大学において2017年度入学者数が例年より多く（684名）、在籍者数が増加（前年度比+63名）したこと等により増加しています。手数料（1億2百万円、前年度比+13百万円）は、大学において受験者の文高理低志向と大規模大学の定員管理厳格化の影響を受けたことに加え、一般入試等でインターネット出願制度を導入した効果もあり、志願者数増（前年度比+14%）に繋がり増加しました。寄付金（90百万円、前年度比+33百万円）は遺贈をはじめとする複数の大口寄付をいただいたこと、また教育振興会寄付金の件数増加等に加え、家庭会大学部会から新社交館2階食堂のテーブル・椅子の現物寄付も受け、総額は増加しています。経常費等補助金（5億31百万円、前年度比+60百万円）は、前年度に大学ITリプレースを実施したことによる教育研究経費増の影響で、大学の私立大学等経常費補助金（一般補助）が増加したほか、さらに私立大学等改革総合支援事業タイプ5（プラットフォーム形成）も採択された結果、収入増に繋がりました。中高部の兵庫県経常費補助金についても、前年度並みの収入を確保できています。付随事業収入は著変動なく（76百万円、前年度比+1百万円）、雑収入（1億44百万円、前年度比+17百万円）は、台風21、22号被害による保険金収入（17百万円）や、中学部において退職給与引当金戻入額が発生したこと等により、収入増となっています。

また、教育活動支出（48億82百万円、前年度比△1億4百万円）をみると、人件費（30億59百万円、前年度比+13百万円）は、退職関連費用が前年度より

減少したものの、定期昇給等により全体的には微増となりました。教育研究経費（14億47百万円、前年度比△1億39百万円）は、前年度は大学ITリプレースをはじめとする環境整備に注力した結果、例年よりも費用が増加し、本年度の減価償却負担増（前年度比+33百万円）に繋がりましたが、本年度は消耗品費が減少し（△1億67百万円）、全体としては例年並みとなりました。管理経費（3億71百万円、前年度比+21百万円）は、重点施策としても掲げている大学広報の強化の一環として、大学公式サイトや入試サイトをはじめとする各種ホームページのリニューアルを実施したこと等により、前年度よりも増加しています。

以上のような要因による収入増加および支出削減により、教育活動収支差額は1億94百万円（前年度比+3億37百万円）となりました。

次に、教育活動外収支についてみると、本年度は例年よりも金銭信託運用益が多かったため、受取利息・配当金は1億43百万円（前年度比+92百万円）となりました。また、借入金の約定返済により借入金利息が減少（△0.4百万円）し、教育活動外収支差額は1億42百万円（前年度比+93百万円）となっています。

さらに、特別収支についてみると、本年度は六甲セミナーハウス等の売却により、前年度未計上だった資産売却差額を計上（16百万円）、その他の特別収入（54百万円、前年度比+31百万円）は、教育振興会寄付金からの寄付の増加（主に岡田山キャンパス改修目的、前年度比+14百万円）や、講堂・総務館耐震改修工事にかかる施設整備費補助金（11百万円）や中高部のIT教育設備整備推進事業費による施設設備補助金の増加（前年度比+14百万円）などを計上し、特別収入は70百万円（前年度比+47百万円）となりました。一方、特別支出として、主に老朽化に伴う取替により発生した空調設備や研究機器等の除却損は、ITリプレースを実施した前年度からは大幅に減少し、13百万円（前年度比△36百万円）を計上、特別収支差額は56百万円（前年度比+84百万円）となりました。

これらの3活動により、基本金組入前当年度収支差額は3億93百万円（前年度比+5億14百万円）、基本金については、空調設備の改修やオムニコート整備等による固定資産の増加や建物借入金の返済など、資産取得にかかる支出額から六甲セミナーハウス等の売却・除却による減少額を控除した第1号基本金組入（22百万円）、および奨学基金等への計画的な組入れとして第3号基本金組入（61百万円）、合計83百万円（前年度比△2億65百万円）の基本金組入をおこないました。その結果、当年度収支差額は3億10百万円（前年度比+7億79百万円）となりました。本年度は高等学部で第1号基本金取崩（1百万円）が発生しており、当年度収支差額に基本金取崩額及び前年度繰越収支差額（△15億28百万円）を加

## 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

|         | 科 目               | 本年度<br>予算 | 本年度<br>決算(A) | 前年度<br>決算(B) | 増減<br>(A)-(B) |
|---------|-------------------|-----------|--------------|--------------|---------------|
| 教育活動収支  | 学生生徒等納付金          | 4,129     | 4,131        | 4,024        | 106           |
|         | 手 数 料             | 92        | 102          | 89           | 13            |
|         | 寄 付 金             | 86        | 90           | 57           | 33            |
|         | 経常費等補助金           | 493       | 531          | 470          | 60            |
|         | 付 随 事 業 収 入       | 73        | 76           | 75           | 1             |
|         | 雜 収 入             | 137       | 144          | 127          | 17            |
|         | 教育活動収入計           | 5,012     | 5,077        | 4,844        | 232           |
|         | 人 件 費             | 3,031     | 3,059        | 3,046        | 13            |
|         | 教育研究経費            | 1,493     | 1,447        | 1,586        | △ 139         |
|         | 管 理 経 費           | 391       | 371          | 349          | 21            |
|         | 徴 収 不 能 額 等       | —         | 4            | 4            | △ 0           |
|         | 教育活動支出計           | 4,915     | 4,882        | 4,987        | △ 104         |
|         | 教育活動収支差額          | 97        | 194          | △ 142        | 337           |
| 教育活動外収支 | 受取利息・配当金          | 143       | 143          | 50           | 92            |
|         | 教育活動外収入計          | 143       | 143          | 50           | 92            |
|         | 借 入 金 等 利 息       | 0         | 0            | 1            | △ 0           |
|         | 教育活動外支出計          | 0         | 0            | 1            | △ 0           |
|         | 教育活動外収支差額         | 142       | 142          | 49           | 93            |
| 特別収支    | 経 常 収 支 差 額       | 239       | 337          | △ 92         | 430           |
|         | 資産売却差額            | 16        | 16           | —            | 16            |
|         | その他の特別収入          | 30        | 54           | 22           | 31            |
|         | 特 别 収 入 計         | 46        | 70           | 22           | 47            |
|         | 資産処分差額            | 9         | 13           | 50           | △ 36          |
|         | その他の特別支出          | —         | 0            | —            | 0             |
|         | 特 别 支 出 計         | 9         | 14           | 50           | △ 36          |
|         | 特 别 収 支 差 額       | 37        | 56           | △ 28         | 84            |
|         | 基本金組入前年度収支差額      | 276       | 393          | △ 120        | 514           |
|         | 基本金組入額合計          | △ 60      | △ 83         | △ 348        | 265           |
| （参考）    | 当 年 度 収 支 差 額     | 216       | 310          | △ 469        | 779           |
|         | 前 年 度 繰 越 収 支 差 額 | △ 1,528   | △ 1,528      | △ 1,095      | △ 432         |
|         | 基 本 金 取 崩 額       | —         | 1            | 37           | △ 35          |
|         | 翌 年 度 繰 越 収 支 差 額 | △ 1,311   | △ 1,216      | △ 1,528      | 311           |

(参考)

|               |       |       |       |       |
|---------------|-------|-------|-------|-------|
| 事 業 活 動 収 入 計 | 5,201 | 5,291 | 4,918 | 373   |
| 事 業 活 動 支 出 計 | 4,925 | 4,897 | 5,039 | △ 141 |

味した結果、翌年度繰越収支差額は△12億16百万円となりました。

## 2. 資金収支計算書

資金収支をみると、事業活動収支で述べたような増収要因に加え、支出についても、大学ITリプレース等の環境整備費用を多く計上していた前年度と比べると大幅減となり、翌年度繰越支払資金は29億93百万円（前年度比+4億35百万円）となりました。

## 3. 貸借対照表

## (1) 資産の部

【固定資産】156億63百万円（前年度比△1億92百万円）  
有形固定資産（86億14百万円、前年度比△2億29百万円）については、オルチン館空調設備改修工事やオムニコート（2面）の整備、中高部H.R教室等のICT化、セキュリティ対策の強化として入退館装置の設置などを計画的に実施しましたが、六甲セミナーハウスの売却や減価償却による資産の減少の

## 資金収支計算書

(単位：百万円)

| 収入の部              |           |              |              |               |  |
|-------------------|-----------|--------------|--------------|---------------|--|
| 科 目               | 本年度<br>予算 | 本年度<br>決算(A) | 前年度<br>決算(B) | 増減<br>(A)-(B) |  |
| 学生生徒等納付金収入        | 4,129     | 4,131        | 4,024        | 106           |  |
| 手 数 料 収 入         | 92        | 102          | 89           | 13            |  |
| 寄 付 金 収 入         | 86        | 90           | 57           | 33            |  |
| 補 助 金 収 入         | 493       | 531          | 470          | 60            |  |
| 資 産 売 却 収 入       | —         | —            | —            | —             |  |
| 付 随 事 業 収 入       | 73        | 76           | 75           | 1             |  |
| 雜 収 入             | 137       | 144          | 127          | 17            |  |
| 教育活動収入計           | 5,012     | 5,077        | 4,844        | 232           |  |
| 人 件 費             | 3,031     | 3,059        | 3,046        | 13            |  |
| 教育研究経費            | 1,493     | 1,447        | 1,586        | △ 139         |  |
| 管 理 経 費           | 391       | 371          | 349          | 21            |  |
| 徴 収 不 能 額 等       | —         | 4            | 4            | △ 0           |  |
| 教育活動支出計           | 4,915     | 4,882        | 4,987        | △ 104         |  |
| 教育活動収支差額          | 97        | 194          | △ 142        | 337           |  |
| 受取利息・配当金          | 143       | 143          | 50           | 92            |  |
| 教育活動外収入計          | 143       | 143          | 50           | 92            |  |
| 借 入 金 等 利 息       | 0         | 0            | 1            | △ 0           |  |
| 教育活動外支出計          | 0         | 0            | 1            | △ 0           |  |
| 教育活動外収支差額         | 142       | 142          | 49           | 93            |  |
| 経 常 収 支 差 額       | 239       | 337          | △ 92         | 430           |  |
| 資産売却差額            | 16        | 16           | —            | 16            |  |
| その他の特別収入          | 30        | 54           | 22           | 31            |  |
| 特 别 収 入 計         | 46        | 70           | 22           | 47            |  |
| 資産処分差額            | 9         | 13           | 50           | △ 36          |  |
| その他の特別支出          | —         | 0            | —            | 0             |  |
| 特 别 支 出 計         | 9         | 14           | 50           | △ 36          |  |
| 特 別 収 支 差 額       | 37        | 56           | △ 28         | 84            |  |
| 基本金組入前年度収支差額      | 276       | 393          | △ 120        | 514           |  |
| 基本金組入額合計          | △ 60      | △ 83         | △ 348        | 265           |  |
| 当 年 度 収 支 差 額     | 216       | 310          | △ 469        | 779           |  |
| 前 年 度 繰 越 収 支 差 額 | △ 1,528   | △ 1,528      | △ 1,095      | △ 432         |  |
| 基 本 金 取 崩 額       | —         | 1            | 37           | △ 35          |  |
| 翌 年 度 繰 越 収 支 差 額 | △ 1,311   | △ 1,216      | △ 1,528      | 311           |  |
| 資金収入調整勘定          | —         | —            | —            | —             |  |
| 前年度繰越支払資金         | 2,558     | 2,558        | 2,753        | △ 194         |  |
| 收 入 の 部 合 計       | 7,746     | 7,841        | 7,828        | 12            |  |

| 支出の部            |           |              |              |               |  |
|-----------------|-----------|--------------|--------------|---------------|--|
| 科 目             | 本年度<br>予算 | 本年度<br>決算(A) | 前年度<br>決算(B) | 増減<br>(A)-(B) |  |
| 人 件 費 支 出       | 3,024     | 3,052        | 3,043        | 9             |  |
| 教育研究経費支出        | 1,159     | 1,117        | 1,290        | △ 173         |  |
| 管 理 経 費 支 出     | 362       | 326          | 317          | 9             |  |
| 借 入 金 等 利 息 支 出 | 0         | 0            | 1            | △ 0           |  |
| 借 入 金 等 返 済 支 出 | 55        | 55           | 115          | △ 60          |  |
| 施 設 関 係 支 出     | 61        | 57           | 141          | △ 84          |  |
| 設 備 関 係 支 出     | 112       | 86           | 295          | △ 208         |  |
| 資 産 用 さ れ 支 出   | 57        | 92           | 159          | △ 66          |  |
| そ の 他 の 支 出     | 246       | 245          | 126          | 118           |  |
| 資金支出調整勘定        | △ 109     | △ 186        | △ 220        | 33            |  |
| 翌年度繰越支払資金       | 2,779     | 2,993        | 2,558        | 435           |  |
| 支 出 の 部 合 計     | 7,746     | 7,841        | 7,828        | 12            |  |

影響が大きく、有形固定資産の総額は減少しています。

特定資産（63億50百万円、前年度比+69百万円）については、銀行預金、金銭信託、地方債等で運用しています。退職給与引当金の減少に伴い、退職給与引当特定資産は△23百万円減となっていますが、教育振興会等による寄付金収入の第3号基本金や岡田山建築保存引当特定資産への組入れが多かったことから、特定資産の総額は増加しています。

その他の固定資産（6億98百万円、前年度比△33百万円）については、教務システムサーバの更新によりソフトウェア増となっているものの、減価償却や除却による減少が多く（△14百万円）、また、繰上返済による貸与奨学金残高の減少（△18百万円）も資産減の要因となっています。

【流動資産】30億48百万円（+4億16百万円）

未収入金（41百万円、前年度比△22百万円）は、主に退職金財団からの交付金および補助金の期末未収入金で構成されています。本年度は講堂・総務館の耐震改修工事にかかる施設整備費補助金（11百万円）を計上していますが、退職金財団からの期末未収入金が前年度よりも少なかったため、未収入金としては減少しています。一方、資金収支計算書の記述のとおり、現金預金は大幅に増加しています。

## (2) 負債の部

**【固定負債】** 16億30百万円 ( $\triangle 38$ 百万円)

借入先は私立学校振興・共済事業団のみであり、短期借入金への振替により長期借入金が減少 ( $\triangle 13$ 百万円) しています。割賦購入による長期未払金も短期への振替による減、退職給与引当金は人員構成の変動等に伴う減となっており、固定負債総額も減少しています。

**【流動負債】** 9億84百万円 ( $\triangle 1$ 億30百万円)

当初借入額4億20百万円の借入金を完済したことにより短期借入金が減少 ( $\triangle 42$ 百万円) しました。また、前年度は例年よりも3月実施の工事未払金等が大幅に増加していましたが、今年度は例年並みとなりましたため、流動負債合計額は減少しています。

## (3) 純資産の部

**【基本金】** 173億14百万円 (+81百万円)

第1号基本金は、保有する固定資産のうち教育の用に供されるものや、教育の充実向上のために取得した固定資産の価額を組み入れたものであり、本年度は、六甲セミナーハウスの売却 ( $\triangle 97$ 百万円) や除却による取崩要因があったものの、借入金の返済(55百万円) や前年度の期末未払分(39百万円) を支払ったことにより今年度の組入額が増加し、20百万円の増加となりました。第3号基本金は、奨学金などの教育研究活動に対して基金の運用果実をもって運営するために組み入れるもので、教育振興会等の寄付金の組入れにより61百万円増加しました。

**【繰越収支差額】**  $\triangle 12$ 億16百万円 (+3億11百万円)

事業活動収支計算書の当年度収支差額の累計額が計上されており、長期的な収支バランスを表しています。

## II. 2018年度神戸女学院事業計画

## 1. 今後の運営方針及び2018年度事業計画

中高部や法人も含めた本学の主な取り組みのうち、特別予算を中心とした2018年度の主な事業計画の内容は以下のとおりです。

2018年度に実施される事業計画の策定にあたり、大学では以下の重点項目を定め、これらを踏まえた施策・全学的取り組みを優先し採択しました。

| 2018年度重点項目<br>(番号: 優先順位) |  | 継続的な注力項目      |
|--------------------------|--|---------------|
| 1. 学修環境の充実               |  | ▽英語教育の強化      |
| 2. 広報                    |  | ▽リベラルアーツ教育の整備 |
| 3. 国際化の推進                |  |               |
| 4. 社会連携の強化               |  |               |

## 【学修環境の充実】

・文学部1号館の1教室を改修し、通訳・語学学習を中心に、グループワークも念頭に置いた視聴覚教室として一新します。ICTを利用したグループワークが可能な視聴覚教室の提供により、教育・学習環境の充実と向上を図り、クローバーゼミや試験等にも対応可能な講義室とします。その

## 貸借対照表

(単位: 百万円)

| 資産の部              |                   | 本年度末<br>(A)           | 前年度末<br>(B)           | 増減<br>(A)-(B)                                      |
|-------------------|-------------------|-----------------------|-----------------------|--|
| 科 目               |                   |                       |                       |  |
| 固定資産              |                   | 15,663                | 15,856                | $\triangle 192$                                    |
| 有形固定資産            |                   | 8,614                 | 8,843                 | $\triangle 229$                                    |
| 土 建 構 築           | 地 物 物             | 1,340<br>4,195<br>502 | 1,341<br>4,376<br>522 | $\triangle 1$<br>$\triangle 181$<br>$\triangle 20$ |
| 教 育 研 究 用 機 器 備 品 | 管 理 用 機 器 備 品     | 509<br>26             | 558<br>20             | $\triangle 48$<br>$\triangle 5$                    |
| 圖 書               | 車 両               | 2,036<br>0            | 2,022<br>0            | $\triangle 13$<br>$\triangle 0$                    |
| 建 設 仮 勘 定         |                   | 2                     | —                     | 2  |
| 特 定 資 産           |                   | 6,350                 | 6,281                 | 69   |
| 第3号基本金引当特定資産      |                   | 1,589                 | 1,528                 | 61   |
| 退職給与引当特定資産        |                   | 1,445                 | 1,468                 | $\triangle 23$                                     |
| 減価償却引当特定資産        |                   | 3,136                 | 3,136                 | 0  |
| 岡田山建築保存引当特定資産     |                   | 178                   | 146                   | 31   |
| そ の 他 の 固 定 資 産   |                   | 698                   | 731                   | $\triangle 33$                                     |
| 電 話 加 入 権         | ソ フ ト ウ エ ア       | 3<br>65               | 3<br>80               | 0<br>$\triangle 14$                                |
| 有 価 証 券           | 有 価 証 券           | 406                   | 406                   | 0  |
| 差 入 保 証           | 差 入 保 証           | 3                     | 3                     | 0  |
| 出 貸 金             | 出 貸 金             | 20                    | 20                    | 0  |
| 貸 与 奨 学 金         | 貸 与 奖 学 金         | 197                   | 215                   | $\triangle 18$                                     |
| そ の 他             |                   | 0                     | 0                     | 0  |
| 流動資産              |                   | 3,048                 | 2,632                 | 416  |
| 現 金 預 金           | 修 学 行 旅 費 預 り 資 産 | 2,976<br>17           | 2,541<br>16           | 434<br>0   |
| 收 入 金             | 未 収 入 金           | 41                    | 63                    | $\triangle 22$                                     |
| 前 払 金             |                   | 13                    | 10                    | 3  |
| 資産の部合計            |                   | 18,712                | 18,488                | 223  |

## 負債の部

| 負債の部            |  | 本年度末<br>(A) | 前年度末<br>(B) | 増減<br>(A)-(B)   |
|-----------------|--|-------------|-------------|-----------------|
| 科 目             |  |             |             |                 |
| 固定負債            |  | 1,630       | 1,669       | $\triangle 38$  |
| 長 期 借 入 金       |  | 183         | 196         | $\triangle 13$  |
| 長 期 未 払 金       |  | 1           | 3           | $\triangle 2$   |
| 退職給与引当金         |  | 1,445       | 1,468       | $\triangle 23$  |
| 流动負債            |  | 984         | 1,115       | $\triangle 130$ |
| 短 期 借 入 金       |  | 13          | 55          | $\triangle 42$  |
| 未 払 金           |  | 180         | 212         | $\triangle 32$  |
| 前 受 金           |  | 682         | 742         | $\triangle 60$  |
| 預 金             |  | 91          | 88          | 3               |
| 修 学 行 旅 費 預 り 金 |  | 17          | 16          | 0               |
| 負債の部合計          |  | 2,614       | 2,784       | $\triangle 169$ |

## 純資産の部

| 純資産の部     |  | 本年度末<br>(A)       | 前年度末<br>(B)       | 増減<br>(A)-(B) |
|-----------|--|-------------------|-------------------|---------------|
| 科 目       |  |                   |                   |               |
| 基本金       |  | 17,314            | 17,232            | 81            |
| 第1号基本金    |  | 15,370            | 15,349            | 20            |
| 第3号基本金    |  | 1,589             | 1,528             | 61            |
| 第4号基本金    |  | 354               | 354               | 0             |
| 繰越収支差額    |  | $\triangle 1,216$ | $\triangle 1,528$ | 311           |
| 翌年度繰越収支差額 |  | $\triangle 1,216$ | $\triangle 1,528$ | 311           |
| 純資産の部合計   |  | 16,097            | 15,704            | 393           |

|             |        |        |     |
|-------------|--------|--------|-----|
| 負債及び純資産の部合計 | 18,712 | 18,488 | 223 |
|-------------|--------|--------|-----|

他、ジュリア・ダッドレー記念館中教室の2教室、エミリー・ブラウン記念館中教室の2教室、デフォレスト記念館大教室の2教室の映像音響設備の更新も実施します。

- ・教育現場で、教員が自由に自分のコンテンツを登録・利用できる映像配信ソフトを導入し、反転授業や教材としての動画活用など、授業で容易に動画を活用できる体制へと整備します。
- ・前回更新から5年経過した図書館システムを更新し、図書館業務のさらなる効率化を図ります。また、図書館利用者も、当館所蔵資料に限らず幅広く資料を検索できるようになります。
- ・新たにデフォレスト館に修学支援室を設け、専門の修学支援担当者が学生の相談に対応できるようにします。
- ・大学内ネットワークシステム、無線アクセスポイント、パソコン教室の情報関連システム及び機器、教職員および学生用のメールシステム等のサーバシステムの整備・維持管理を継続して実施します。また教育・ネットワークシステムの構築・運用に付随する様々な運用支援と課題解決のための技術支援を受け、安定運用を図っていきます。
- ・クローバーゼミ等の授業でモバイルデバイスを利用することにより学生の学修環境の多様化・充実化をおこなうため、多様な授業形態に対応できるタブレット端末を整備します。また、キャンパス内での学生の学修を支援するため、無線LANに接続可能なノートパソコンの貸出体制も維持します。
- ・コンピュータ音楽室を、文学部2号館からエミリー・ブラウン記念館に移転し、部屋の拡張等による教育環境の改善を図るとともに、コンビニ前にイトインスペースを確保し、在学生の学修環境向上に努めます。さらに、什器整備や演習用機器等を追加し、音楽学部生だけでなく、オープン科目として他学科学生の受講者増に対応できる体制を整備し、全学的な教育充実を図ります。
- ・高感度発光イメージング解析器を導入し、環境や人体に安全で高感度な検出法にて電気泳動の解析を実施できるようにします。教員の研究に加え、学生実習として「生命の科学実習」「演習I」「演習II」等の授業にも活用していきます。
- ・(中高部)熱中症の発生を予防するため、2015年度に実施した第二体育館2Fの空調設備工事を1Fフロア全体に拡張します。また、アンジー・クルー記念館の窓に遮熱、紫外線カットフィルムを設置し、冷房効果を高めることで快適に授業を受けられるようにします。
- ・(中高部)タルカット記念館書道教室・美術・工芸教室の流し台を改修し、蛇口数の増加や電気温水器の設置、洗い場の改修等により、学修環境の改善を図ります。

### 【広報】

- ・2017年度に実施したプランディングのための施策を展開していきます。2017年度に実施した交通広告の掲出を引き続きおこなうとともに、2018年度は本学が戦後に新制大学として認可されてから70周年の節目であるため（全国12大学のうちの1校）、卒業生を紹介する新制大学70周年記念誌を発行し、学生、保護者、卒業生、企業等の関係各所に送付します。
- ・大学ホームページについて、「Stories」（卒業生インタビュー）の充実や、学内写真等の素材のストックを増やします。その他、人間科学研究科のホームページリニューアルをおこない、引き続き質の高い情報発信に努めます。
- ・神戸女学院ブランド商品について新たなラインアップを考え、参加学生及び協力企業とともに商品企画、開発し、その後の販売の実現に向けての活動を行います。現行ブランド商品についても、多くの方に認知してもらえるような効果的な広報活動を展開します。
- ・2015年10月に発行した『重要文化財神戸女学院—ヴォーリズ建築の魅力とメッセージ』（創立140周年記念版）を一部改訂のうえ増刷し、プロジェクト科目やツアーマイスター養成講座受講生をはじめとする学生・生徒や学院関係者の理解に役立てるとともに、学院広報資料として活用します。

### 【国際化の推進】

- ・「国際化ビジョン」に従って国際交流事業を活発化するため「ワイヤミング大学Honorsプログラム」などの短期受入れに加え、現在の交換留学制度を維持するため、2018年度より「日本語&日本文化集中プログラム」（1クール4～5週間）を実施し、日本語の授業数を大幅に拡充します。
- ・派遣留学に必要な英語スコア（TOEFL-iBT、IELTS（アイエルツ）等）を取得するための課外補習講座（1クール30時間以上）の開講や、2015年度より開始したIELTSの学内受験の際の受験料一部補助により、派遣留学を含めた留学生数の増加を図ります。
- ・2019年2月にオーストラリアフィールドスタディを実施し、多文化主義先進国オーストラリアにおける人種差別撤廃政策のアクティブ・ラーニングを通して日本における状況を再考する機会を提供します。
- ・「遠隔同時会議・通訳システム」を継続活用することにより、海外とライブで双方向的な授業や会議を開催します。学生の国際感覚や語学力の向上、遠隔地との会議の簡易化を図ります。

### 【社会連携の強化】

- ・「戦略的人生設計への試み」として、主体的・戦略的に活躍している女性を学外から招聘し、講演会、対談、メンタリングを通して、グローバル企業（外資系）のインターンシップに自主的に応募

し企業内研修を進んで体験するといった積極的な学生を増やす試みをおこないます。

- ・「舞踊年度公演」「舞踊卒業公演」を開催し、定期演奏会では、4年ごとの演目である『第九』を演奏します。また、大学間協定並びに交換留学協定を締結する米国テキサス州のサムヒューストン州立大学との交流プログラム事業として、両大学の学生合同によるオペラを制作し、2018年6月に本学講堂にて両大学合同による歌劇「ディドとエヌアス」のオペラ公演をおこないます。

#### 【英語教育の強化】

- ・英文学科以外の学生にも4年間を通してTOEICを受験する機会を与えるため、2年生後期～4年生の全学科学生を対象に、受験料の一部補助によるIP-TOEIC(L/R)を実施します。また、英語能力が高い学生の受験希望のあるTOEIC(S/W)テストについても受験料の一部を補助するなど、TOEICを勉強するモチベーション維持とスコアアップを支援します。
- ・英文学科以外のTOEICの伸び率は、外国语学科以外の学科では類を見ないほどの伸びを達成しており、さらなるスコアアップを支援すべく、講習会受講料の一部を補助します。
- ・英文学科以外の1年生の後期にOsaka English Village(体験型英語教育施設)への参加を義務づけ、英語アレルギーを取り払い、英語学習のモチベーションアップを目指します。また、2014年度から実施している「英語手帳」を使った学習も継続します。

#### 【その他】

##### 〈学生生徒支援〉

- ・「就職率向上のための支援講座」「フロントランナー育成のための特別講座」「早期離職抑制のためのキャリア支援」を実施し、引き続きキャリア教育及びキャリア支援活動の充実を図ります。

##### 〈セキュリティ〉

- ・セキュリティ強化のため、警備員を増員し、西門に門衛所を設置します。また、デフォレスト記念館、総務館のほか、重要文化財や学生の利用度が高い建物に順次入退館装置を設置します。

##### 〈管理〉

- ・重要文化財各棟については、経年により外壁や建具が劣化し損傷が見られるため、重要文化財の保存を目的として、特に劣化が進んでいる理学館、総務館、図書館、文学館の4棟について、2020年度に亘り美装化工事を実施します。また、タルカット館の北面のサッシ等を改修します。
- ・2017年度より実施している講堂・総務館耐震改修工事を継続して実施し、安全の確保に努めます。
- ・デフォレスト記念館、中高部1号館、第二体育館等の改修を行い、トイレ・シャワーの整備を進めます。
- ・通行時の安全性向上や防犯の強化を目的に、通行量の多い正門からデフォレスト館までの区間にお

いて既存街路灯のLED化や足元灯を増設し、キャンパス内街路灯を整備します。また、キャンパス内の樹木を整備し、キャンパス内及び敷地境界沿いの公道の安全性の確保、美観の維持に努めます。

- ・中高部1号館ロッカー室除湿対策、中高部1号館給水配管改修、第二体育館2階南側入口引戸改修、高圧設備機器精密点検・高圧設備機器取替など、老朽化や不具合への対応を図ることで、安全かつ快適に学修できる環境を整えます。
- ・会計ソフトのバージョンアップをおこない、システムの安定稼動を図ります。また、旅費規程の見直しと合わせて旅費精算システムを導入することにより、旅費精算事務の効率化の実現に向けた作業を進めます。

#### 2. 2018年度予算書

2018年度事業活動収支予算書の概要は以下のとおりです。

#### 事業活動収支予算書 (単位:百万円)

|               |               | 科 目   | 金 額                                   |
|---------------|---------------|---|---------------------------------------|
| 教 育 活 動 収 支   | 収 事 業 入 の 活 動 | 学生生徒等納付金<br>手 数 料<br>寄 付<br>經 常 費 等 補 助 金<br>付 随 事 業 収 入<br>雜 収 入 | 4,144<br>91<br>58<br>448<br>65<br>162 |
|               | 支 出 事 業 の 活 動 | 教育活動収入計   | 4,969                                 |
|               |               | 教育活動支出計   | 4,967                                 |
|               |               | 教育活動収支差額  | 1                                     |
| 教 育 活 動 外 収 支 | 収 事 業 入 の 活 動 | 受取利息・配当金  | 41                                    |
|               | 支 出 事 業 の 活 動 | 教育活動外収入計  | 41                                    |
| 特 別 収 支       | 支 出 事 業 の 活 動 | 借 入 金 等 利 息   | 0                                     |
|               | 特 別 収 支       | 教育活動外支出計  | 0                                     |
|               |               | 教育活動外収支差額   | 40                                    |
|               |               | 經 常 収 支 差 額   | 41                                    |
| 特 別 収 支       | 収 事 業 入 の 活 動 | その他の特別収入  | 60                                    |
|               | 支 出 事 業 の 活 動 | 特 別 収 入 計   | 60                                    |
| 特 別 支 出       | 支 出 事 業 の 活 動 | 資 产 处 分 差 額   | 8                                     |
|               | 特 別 支 出       | 特 別 支 出 計   | 8                                     |
|               |               | 特 別 収 支 差 額   | 52                                    |
|               |               | 基本金組入前当年度収支差額   | 94                                    |
|               |               | 基 本 金 組 入 額 合 計   | △ 157                                 |
|               |               | 当 年 度 収 支 差 額   | △ 62                                  |
| (参考)          |               | 事 業 活 動 収 入 計   | 5,070                                 |
|               |               | 事 業 活 動 支 出 計   | 4,976                                 |

史料室の窓(46)

## デフォレスト先生の高等教育構想

神戸女学院史料室 佐伯 裕加恵

今年2018年、神戸女学院は新制大学発足70年を迎えました。

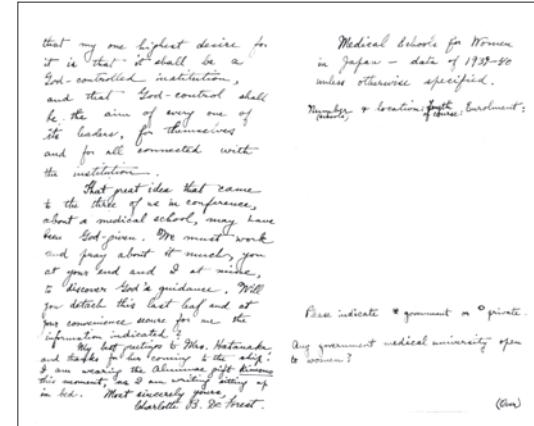
ところで、戦前の神戸女学院における女子高等教育の理想を実現したのは第5代院長 Miss Charlotte Burgis DeForest (1879-1973) といえるでしょう。先生は日本生まれの日本育ちの宣教師二世で、1905年に神戸女学院に着任し、1915年から1940年まで院長を務めました。その間、大学部を充実させ、キャンパスを神戸山本通から西宮岡田山に移転し、女子大学が制度上認められるときに備えて準備を重ねていきました。今年は先生の没後45年の記念の年に当たります。

デフォレスト先生は聰明で心優しい人であったといいます。敬虔な祈りの人でしたが、単なる精神主義者ではなく、非常に現実的で実務的な人でした。戦前の高等教育部門の「大学部」という名称への改称は「広く社会に学院の真相を認められん事を望んだ」ためで、決して名ばかりのイメージ先行ではありませんでした。また、1909年に専門部を大学部と改称した後、大学部英文学科第二部（現在でいえば教員養成コース）の卒業生に中等教員無試験検定（現在と同様に単位履修で教員免許が取得できる）の認可を得ています（1923年）。

こうしてカレッジ教育の充実に努めてきた先生が立案しながら幻に終わった構想が2つありました。「健康教育科」と「医学部」です。

「健康教育科」は今でいうなら、体育教師や健康管理をおこなうトレーナーを養成する体育学科のようなものでしょうか。1932年に2年制の家政科（今でいえば短期大学の家政学部の課程にあたる学科）を作っていましたが、「健康教育科」は修業年限3年で、この2年制の家政科の保健関係の諸科目を拡充して、これに体育、競技に関する実技や理論を加えるというものでした。卒業後は、学校や各種団体に奉職して、その健康管理を指導する傍ら、体育教師にもなるという構想でした。残念ながら、当時の日本の状況では、こうした科目の指導教授を得ることが難しく、卒業後の受け入れ先が得られるかどうかも不透明であったため、教授たちの賛成を得られませんでした。しかし先生は新しい学科を創ることを断念せず、この構想をもとにして、修業年限3年で家事科教員（現在でいえば家庭科教員）無試験検定を得られる「家事教育科」を立案し、1940年から授業を始めました。

そしてもう一つの「医学部」構想。この考えを公にしたのは1940年1月24日のことでした。1939年11



Miss DeForest's letter (Jan. 24-5, 1940)

月、先生は病に倒れ、帰米を余儀なくされ、1940年1月18日、学校を離れます。その後、後を託した畠中博先生に宛てて書かれた手紙の中で先生は医学部構想を語っています。

医学部についての素晴らしいアイディア、それは神から与えられたものといえる。私たちはそれについてよく考え、神のお導きを得るために祈らなければならない。日本では女性のための医学校はいくつもあり、何人の学生がそこで学んでいるのか、また、どれくらいの卒業生を出しているのか、それらを国立、公立、私立の別で統計を取って知らせてほしいと、具体的な指示もしています。

病で学校を去り、院長をも辞任したデフォレスト先生。そんな中にあっても神戸女学院の教育のことを考え続けていたのです。結局、戦争がはじまり、先生は学校に戻れなくなりました。そして終戦後、新制大学としてスタートするために新しい学部を創ることはできませんでした。

医学部構想を語った手紙の中で、先生は次のように言っています。

「わたしは、わたしの神戸女学院に対する愛においてふさわしくない利己的なものを洗い去るように祈りました。私の最も大いなる望みは、神戸女学院が神によって支配された学校であり、その御旨にかなう学校となり、神の御意が、この学校に關係するすべての人びとの間になされるようにということです。」

現在の神戸女学院を見て、デフォレスト先生はどんなことを思われるでしょうか。

## &lt;キャンパスお気に入りの場所&gt;

**神は細部に宿る**

「神は細部に宿る」という言葉は、ドイツのモダニズム建築家のミース・ファンデル・ローエ氏が、「建築・デザイン等においては、ディテールにこだわることで芸術性が高まる」という趣旨のことを表す言葉として使用したこと、一般的になつたようです。実際には「細かなことでも大事なことを疎かにすると全ての価値を失うことがある」という意味で使われるようです。

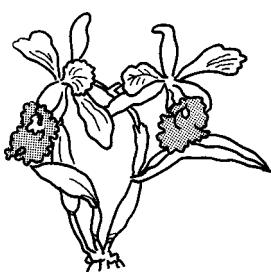
私のお気に入りの場所は、「講堂前の男子トイレ」です。執務場所に近いので日常的に利用しているほか、夏場は正門から岡田山を登つてみると大量の汗をかくので、小さなテーブルがあり物を置くことができることから、毎朝着替えている場所でもあります。

そのトイレが、この1年間でとても綺麗になってきています。もともとよく掃除されていたうえに、壁のベンキが塗り替えられ雰囲気が明るくなつたほか、いつの間にか生花が活けられるようになりました。

花瓶はコップで、岡田山の花の一部を活けてくださるのでしょうが、トイレに入る都度、季節の花の美しさと香りに心が洗われるほか、活けていただいた方のお気持ちに接することで、温かく優しい気持ちが広がります。

芸術性の高い重要文化財の建物に加えて、利用する人の気持ちに寄り添って生花を活けてくださる心にこそ、「細部に宿る神」が在るのではないかと考えています。

(経理課長)

**IT教育現場最前線のパソコン教室**

神戸女学院は緑が多く、低層の美しい校舎群は心が和み落ち着きます。それらの場所は皆様が話されますので、今回はパソコン教室であるCS1、CS2教室について話したいと思います。

これらの教室はジュリア・ダッドレー記念館を入ってすぐ右にあります。新入生は授業開始前のITオリエンテーションで最初にパソコン教室を利用する機会があり、全ての学生が入学直後の半年間ここでITリテラシー教育を受けます。

学生2人に1台の中間モニターがあり、先生のパソコンの画面や書画カメラの映像などが表示できます。学生の前のモニターを含めすべてがワイド画面なので教室内にずらりとならんだモニターは壮観です。

また、両教室は教卓が背中あわせになるように配置されており、2つの教室を別々の授業で使用したり、同じ授業で使用（統合授業）したりできる高度な機能を持っています。統合授業では、教室間にある内扉を開けると両方の教室を中央から見渡すことができますが、主に中間モニターを用いておこなわれるため、先生のいない教室にいる学生も問題なく授業を受けることができます。また、各学生の画面を教卓にあるモニターで確認できるので、先生は個別の学生の状況を把握できるようになっています。

このような機能性に富んだ教室で、今日も学生はITリテラシーを高める勉強に取り組んでいます。

(情報処理センター職員)



CS2教室（内扉の先はCS1教室）

## 大学報告

### セキュリティ強化プロジェクト

セキュリティ強化プロジェクトのこれまでの活動状況と今後の予定等をご説明します。

同プロジェクトは2016年1月に発足し、実態調査を実施したうえで、同年9月に学院常務委員会、部長会、理事会において、1. 学生がいきいきと活動できるキャンパスにする、2. 重要文化財を公開・活用していく、3. 上記の中でできるだけ効率的な鍵の管理をおこなう、という基本方針を決定しました。

基本方針に沿って、2017年4月から理学館、理学館別館、ホルブルック館での鍵管理装置と入退館管理装置の運用を開始し、同年8月にはジュリア・ダッドレー記念館へ入退館管理装置を設置しました。

2017年5月から入構基準の検討を開始し、2018年2月には入構基準（案）に対するパブリックコメントを募集しました。頂戴したコメントを勘案したうえで、2018年4月からは警備員を増員し、正門と西門における外来者への受付を開始しました。2018年5、6月には、7月からの入構基準と谷門・北門の電子錠管理の導入に向けて、教職員の皆様への説明会を実施したところです。

入構基準と谷門・北門の電子錠管理の導入の考え方とは、大阪教育大学附属池田小学校での悲惨な事件の教訓に基づくものです。具体的には、不審者の侵入を水際で防ぐために①管理する門を限定（他の門を閉じる）し、侵入した不審者を見分けやすくするために②ネームプレートの着用を徹底することでです。

本学院では、外来者は正門か西門で受付し、Visitorカードを着用してもらい、谷門と北門は、電子錠により学院関係者のみ通行可能とします。教職員がIDカードを携行し、受付した外来者がVisitorカードを着用することで、何も携行していない不審者を判別しやすくなります。また、自動車の入構については、既存の運用を徹底することで不審車両の侵入を防止します。

実際に運用を開始すると、様々な課題が出てくるかもしれませんのが、本学院のキャンパスをより安心・安全なものとするために、ご相談させていただきながら解決していきたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

（経理課長）

### 交通広告（「女は大学に行くな、」）を掲出

4月に「女は大学に行くな、」から始まる交通広告（電車内ドア横広告）を掲出しました。4月1日（日）～30日（月）にJR西日本（関西圏の普通電車）、4月3日（火）～16日（月）に阪急全線にそれぞれ掲出しました。この広告は、本学が新制大学として認可されてから3月に70周年を迎えたことを記念し掲出したもので、この春に大学に入学した新入生に対するメッセージが込められています。

広告を見た方がSNS（Twitter）に感想を投稿したことをきっかけに、その後SNSを中心に大きな反響がありました。ネットニュースでも記事として取り上げられ、一時は「Yahoo!ニュース」のアクセスランキング（「ライフ」分野）でトップになりました。4月22日（日）には、テレビ朝日系「サンデーステーション」でも取り上げられ、齊藤言子学長と本学学生のインタビューが番組内で放送されました。また、本学ホームページへのアクセス数、及び本学のネットでの検索数が急増しました。

今回の広告のメッセージに対しては、様々な意見がありました。この広告で最も伝えたかったことはそのメッセージの中にあります。「『正解がない』。その不確かさを、不安ではなく、自由として謳歌するため。私たちは学ぶことができる。この、決してあたりまえではない幸福を、どうか忘れずに。たいせつに。」です。新入生だけではなく、すべての学生にぜひ読んほしい一文です。

（学長室）

### 女は大学に行くな、

という時代があった。専業主婦が当然だったり。葬送社が前提だったり。時代は変わる、といふけれど。いちばん変わったのは、女性を決めつけてきた重力かもしれない。いま、女性の目の前には、いくつもの選択肢が広がっている。そのぶん、あたらしい迷いや葛藤に直面する時代もある。「正解がない」。その不確かさを、不安ではなく、自由として謳歌するため。私たちは、学ぶことができる。この、決してあたりまえではない幸福を、どうか忘れずに。たいせつに。

私はまだ、私を知らない。

神戸女子学院大学

1948年3月25日、神戸女子学院大学は最初の新制大学として認可されました。

大学院 | 学部 | 入試情報 | 人物研究室 | ニュース | SNS | [http://www.kobe-col.ac.jp](#) | [http://kobe-col.ac.jp](#)

4月に掲出した交通広告（電車内広告）

## 公認心理師養成カリキュラムの設置

### 1. 公認心理師法

公認心理師は2015年9月に法律が制定された心理支援専門職の国家資格（文科省、厚労省共管）で、2017年9月15日に施行され、2018年度からその養成のためのカリキュラムが全国の大学で始まっています。公認心理師になるためには、学部4年間と大学院2年間とで所定の科目（講義・演習・実習を含む）の単位修得の後、資格試験に合格しなければなりませんが、学部4年間のカリキュラム修了後に厚労省・文科省が認定したプログラムを持つ機関で数年の実務経験を経た者にも受験資格が与えられます。厚労省・文科省によるカリキュラム検討委員会での意見がまとまるのに難渋し、2017年5月末日にカリキュラム決定がずれこみ、慌ただしいものでした。

### 2. 臨床心理士

既存の臨床心理士は文部科学省の監督のもと、公益財団法人「日本臨床心理士資格認定協会」が、大学院の所定のカリキュラムを修了した者に課す資格試験に合格することで与えられる民間資格で、既に30年近くの歴史と実績を重ね、現在3万人以上の有資格者がいます。本学大学院も一種指定校として、多くの臨床心理士を輩出しています。心理・行動科学科に入学する学生の約半数は、大学院2年の課程を修めねばならないにもかかわらず、臨床心理士を目指して入学してきます。本学としては、2資格とも受験できるカリキュラムを設け、入学生の進路を保証することを考えました。

### 3. 公認心理師カリキュラム設置の必要性

2018年度から、既存の臨床心理士養成課程をもつ大学のほとんどが公認心理師養成課程を並置させましたし、公認心理師から新規参入する大学もありました。心理・行動科学科、大学院で、急いで態勢を整えなければ、公認心理師養成カリキュラムをもつ大学、大学院に学生を取られてしまい、志願者が激減する危険性があるので、対応に奔走しました。

### 4. 特例的経過措置

2017年度に心理・行動科学科、大学院に在籍していたものについては、読み替えによる特例の経過措置があります。本年度、心理・行動科学科の学部2年生以上の学生は、読み替え可能な科目を取得し、

本学大学院、又は対応カリキュラムを設置している他大学院に進学して、所定の科目を修得することで公認心理師試験が受験できます。また、大学院修了生も科目の読み替えができるれば受験できますし、心理的支援の仕事をしている現任者の場合も一定の条件を満たせば受験することができます。

### 5. 2資格の必要性とこれからの見通し

公認心理師と臨床心理士の2資格を受験可能とするには、重なる科目は多いにもかかわらず、それぞれの機関の指定する科目と条件を満たさねばならず、カリキュラムの再編は大変でした。公認心理師カリキュラムでは、大学院では450時間以上の実習があり、心理相談室の実践も含まれるもの、その多くは医療機関を必須とする3領域以上の複数の学外機関で実施せねばなりません。

臨床心理士はスクールカウンセラーや、事件、事故、特に大震災の心のケアでも注目されました。犯罪被害者や自衛隊員の心のケアで警察や自衛隊にも常勤職員として勤務しています。当然、精神科などの医療機関には多くの心理士がいますし、ターミナルケアや出生前のリスク遺伝子に関わる相談等もあります。福祉領域でも、以前からの児童相談所に加えて、児童養護施設での常勤職も増えてきました。家裁、少年鑑別所、少年院などの司法関係、産業カウンセラー等、臨床心理士は幅広く活躍しています。

公認心理師は国家資格なので、今後カウンセラーの募集では公認心理師資格が先に来るでしょう。しかし、臨床心理士は長年の実績と研修ポイントをもとに5年に一度資格更新の制度があり、一定の質が担保されています。更新制度のない公認心理師は質を担保することが難しいかもしれません。

本大学院前期課程の修了で、原則2資格の受験ができます。学部資格が無く臨床心理士だけしかできない修了生も出ますが、同じ教育を受けていることの理解を得ながら、2資格共に国民の心のケアを担える人材を育てていきたいと考えています。

（人間科学部長 小林 哲郎）

## 神戸女学院大学&サム・ヒューストン州立大学 合同オペラ《ディドとエneas》

神戸女学院大学の学生と、2015年から大学間協定並びに交換留学協定を締結する米国サム・ヒューストン州立大学(SHSU)の学生が共同で制作したパーセル作曲《ディドとエneas》の合同オペラ公演が、6月1日(金)と2日(土)に神戸女学院講堂でおこなわれました。

公演には、本学音楽学部・音楽研究科の学生・大学院生13名と、SHSUの学生37名が出演。SHSUは5月27日(日)に来日。28日(月)から31日(木)まで連日22時まで合同稽古をおこないました。指導する教員からの指示に対し、意図を素早く察知し、意思疎通をとりながら表現を修正してゆく姿は真剣そのもの。言語や国境の垣根を超えて、コミュニケーションをとり、ひとつの総合舞台芸術を創り上げてゆく姿は、この試みが目指した眞の国際理解に挑むものとなりました。

作品は、バロック時代のイギリス人、ヘンリー・パーセル(1659~1695)による名作で、国の重要文化財の講堂に特設のステージを設置。ライティングにより講堂のアーチは美しく照らしだされ、幻想的な美しい講堂の空間美に、多くのお客様が魅了されました。

2日間ともに会場はほぼ満席となり、盛況の中で公演がおこなわれました。公演終了後、会場はスタンディングオーバーションに包まれ、両大学の学生は達成感に満ち溢れた表情で喜びを分かち合いました。

日米の学生がオペラを共同制作することは前例がなく、朝日新聞、神戸新聞で大きく紹介された他、本学の学生3名が取材でNHK第1放送のラジオ番組に出演する等、メディアでも大きく取り上げられました。

(音楽学科専任講師 松浦 修)



ディドが息絶える終幕のシーン

## 女性とキャリア講演会

5月31日(木)、Karen Kelley 駐大阪・神戸米国総領事を講師としてお迎えし、米国総領事館と本学の共催で「女性とキャリア講演会」が開催されました。

“Women’s Economic Empowerment in the U.S. and Japan ~A Personal Perspective~”と題したご講演では、日米関係の現状について触れられた後、シングルマザーとして2人の息子さんを育てながら長年外交官として働いてこられた総領事ご自身のご経験から、次の3つのアドバイスがありました。①すべてを自分一人でやろうとしない。②仕事と子育ての両立は簡単ではない。人生に家庭生活を第一にする時期があって良いし、またキャリアを第一に考える時期があって良い。③自分を信じる習慣をつける。女性は自分の能力を疑う習性がある。自信を持って。そしてご講演は、「神戸女学院大学の学生であることに誇りを持ち、各自がここで学んだことを、地域に、日本社会に、世界にどう還元していくかを考える。自分を信じて諦めないで。」とのエールで締めくられました。

その後の質疑応答では、「Me Too運動について」、「モチベーションをどう上げておられるのか」など学生からの様々な質問に、1つ1つとても丁寧にお答えくださいましたのが印象的でした。会場のめじラウンジには学生・教職員150人が集まり、講演会は盛会裡に終了しました。

Kelley 総領事をはじめ米国総領事館の皆様、ご後援いただいた読売新聞大阪本社様、そして同時通訳を担当してくださった英文学科の中村昌弘先生、奥村キャサリン先生に心からお礼申し上げます。

(学長室課長)



Karen Kelley 駐大阪・神戸米国総領事

## Exchange Student Becomes A College!

神戸女学院大学は「国際化の推進」の目標のもと、交換留学を活性化するために努力していますが、2018年4月には新たに史上最高の13名の交換留学生をイギリス・韓国・中国・台湾・フィリピンからお迎えしました。

特に、今回が初めてとなる韓国・淑明女子大学、中国・揚州大学、台湾・文藻外語大学の3大学はもちろん、英国・イーストアングリア大学、フィリピン・アサンプション大学、韓国・徳成女子大学からも留学生を受け入れることができとても嬉しく光栄に思っています。

2017年9月からの4名を合わせて現在17名の交換留学生は全員が学生寮に滞在していますが、毎年家庭会から留学生の寮費への経済的ご支援をいただいていることは非常にありがとうございます。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

留学生たちは日本語科目、英語による日本文化や日本現代事情の授業を履修していますが、加えて“Tutorial for Exchange Student”という、各自が興味を持つ分野について希望する専任教員から個人指導を受けて学究を深める授業（制度）があり非常に好評です。また「留学生バディ」など本学の学生たちと積極的に交流を深め友情を育んでいます。

創立以来「国際理解」を教育の柱のひとつとしてきた神戸女学院で交換留学生も日本人学生もよき学びと交わりの時を持つことができるよう、そして新しい世界、新しい自分に出会えるようにと心から願っています。

（国際交流センター課長）



飯院長とともに（2018年5月9日）

## 映画「センセイ君主」ロケをおこないました

2018年1月末から2月中旬にかけて、映画「センセイ君主」のロケをおこないました。原作舞台の一つが兵庫県であることや、月川翔監督が歴史的建造物内での撮影を強く希望されたことから、兵庫県を通じて依頼がありました。前例のないことでしたが、中高生に人気のある作品の実写化であることから入試広報等にも資すると判断し受け入れました。

撮影は中庭と図書館本館1階を中心に、デフォレスト記念館前、文学館、理学館など多くの場所で実施し、大学の春季休暇期間中ではあったものの、人気俳優を間近に見る機会を得た学生の間では大いに話題となっていました。

経験のないことばかりの中、撮影実施にあたり様々な問題も発生しましたが、兵庫県や映画スタッフとも協力しながら対応することで、重要文化財の「活用」における貴重なノウハウが蓄積できたと思います。

ご協力をいただきました学内外の皆さんに、心より感謝申し上げます。

先日報道公開がおこなわれ、さまざまなメディアやネット等で紹介される中で、卒業生をはじめ関心も増しているようです。映画は8月1日東宝系で公開されますので、ぜひご覧ください。

（総務課）



撮影風景

## 新社交館2階食堂のテーブル・椅子更新

新社交館2階食堂のテーブル・椅子は35年以上にわたって使用されているものが中心となっており、経年劣化が課題となっていましたが、家庭会大学部会からの現物寄付により、テーブルと椅子の更新をおこないました。

木製で維持管理のしやすさが考慮された素材を活用しつつ、テーブルの白い天板と3つの淡い色調を用いた椅子の座面と相まって雰囲気が一変しました。

座り心地やデザインにもこだわっており、学生生徒に憩いの時間を提供しています。

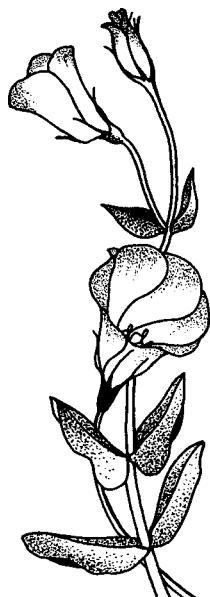
また、総席数も約20席増加しましたが、利用の実態にあわせて2人がけテーブルやカウンター席を大幅に増やすことで、増加分以上の混雑緩和を図ることができます。

ご芳志に報いるべく、大切に使ってゆきたいと考えています。

(総務課)



新しいテーブル・椅子と寄付報告ボード



## 大学春季宗教強調日礼拝 (創立者記念日礼拝)

例年、大学では創立者イライザ・タルカット先生の誕生日を含む愛校週間の金曜日のアッセンブリーアワーで春季宗教強調日礼拝（創立者記念日礼拝）を守っています。

本年も5月25日に飯謙院長より「創立者イライザ・タルカット先生（1836-1911）一神戸女学院建学の祈りー」と題してご講演をいただきました。

イギリスからアメリカに移住してこられたタルカット家の歴史、タルカット家と関係の深い教会やモニュメント、来日に至るまでのタルカット先生の歩み、神戸女学院が創立された経緯をスライドを用いて新入生にも分かりやすくお話くださいました。

隣のために与えられたタラントンを充分に生かした人に与えられる聖書の言葉、「忠実な良い僕だ。よくやった。…主人と一緒に喜んでくれ」（マタイによる福音書25章21節）が墓碑に刻まれている先生のご生涯を学び、今、自分がおかれているところで何をなすべきかを考える機会となりました。飯院長は、自分のためだけではなく、呼びかけに応答する開かれた精神、置かれた場所で役割を果たすという神戸女学院の学風を身に着け、共感性の高い人格へと成長していくって欲しいと呼びかけられました。礼拝に集った在学生、教職員も改めてタルカット先生の志を想い起こす時となりました。

愛校週間のチャペルアワーでは卒業生である職員3名がそれぞれ神戸女学院への思いを話されました。タルカット先生のお誕生日である5月22日には神戸再度山にある先生の墓前にて中野敬一チャプレンの司式で礼拝をおこない、帰途神戸女学院最初の校地である神港学園を訪問。当時の地図を拝見しながら創立時へと思いを馳せました。歴史の重みを感じる学校で学べたことを嬉しく思うと同時に、守るべき建学の祈りを深く心に刻むひとときでした。このプログラムには教職員とめぐみ会理事、学生の計16名が参加したことを付記いたします。

(チャプレン室)

## 2017年度 神戸女学院大学図書館報告

### 1. 統計

- ・蔵書数

|      | 2017年度受入 | 2017年度末現在 |
|------|----------|-----------|
| 和書   | 2,388冊   | 260,364冊  |
| 洋書   | 976冊     | 171,663冊  |
| 合計   | 3,364冊   | 432,027冊  |
| AV資料 | 80点      | 4,147点    |

- ・2017年度貸出状況

| 学 生     | 教職員    | 外来者    |
|---------|--------|--------|
| 38,666冊 | 6,077冊 | 1,120冊 |

- ・2017年度相互利用

|    | 文献複写 | 図書貸借 | 閲覧 | 照会 |
|----|------|------|----|----|
| 依頼 | 579件 | 36件  | 5件 | 1件 |
| 受付 | 424件 | 39件  | 6件 | 3件 |

### 2. 受入図書

- ・教育資料費による購入図書

"The Works of John Ruskin" ほか 6タイトル

- ・寄贈図書

『昭和天皇実録』ほか 計198冊

- ・寄贈視聴覚資料

計2点

### 3. その他

- ・クラス別ガイダンス

42回実施

(図書館課長)

## 2018年度 大学・大学院入学試験結果概要

### ●大 学

| 学 部   | 学 科           | 入学定員 | 入学者数 |
|-------|---------------|------|------|
| 文学部   | 英文学科          | 150  | 172  |
|       | 総合文化学科        | 200  | 236  |
| 音楽学部  | 音楽学科          | 46   | 27   |
|       | 心理・行動科学科      | 90   | 111  |
| 人間科学部 | 環境・バイオサイエンス学科 | 80   | 81   |
|       | 合 計           | 566  | 627  |

### ●大 学〔編入学（3年次）〕

| 学 部  | 学 科  | 入学定員 | 入学者数 |
|------|------|------|------|
| 音楽学部 | 音楽学科 | 1    | 0    |

### ●大学院（修士課程・博士前期課程）

| 研究科     | 専 攻      | 入学定員 | 入学者数 |
|---------|----------|------|------|
| 文学研究科   | 英文学専攻    | 13   | 4    |
|         | 比較文化学専攻  | 5    | 2    |
| 人間科学研究科 | 人間科学専攻   | 10   | 7    |
|         | 音楽芸術表現専攻 | 7    | 4    |
| 合 計     |          | 35   | 17   |

### ●大学院（博士後期課程）

| 研究科     | 専 攻     | 入学定員 | 入学者数 |
|---------|---------|------|------|
| 文学研究科   | 英文学専攻   | 2    | 0    |
|         | 比較文化学専攻 | 2    | 0    |
| 人間科学研究科 | 人間科学専攻  | 2    | 2    |
|         | 合 計     | 6    | 2    |

## 2018年度 在籍学生数

(2018年5月1日現在)

### ●大 学

| 学年  | 学部・学科 | 文 学 部 |        | 音 楽 部 | 人間科学部 |      | 合 計 |     |      |
|-----|-------|-------|--------|-------|-------|------|-----|-----|------|
|     |       | 英文学科  | 総合文化学科 |       | 音楽学科  | 心理学科 |     |     |      |
| 1年  | 18000 | 172   | 236    | 408   | 27    | 111  | 81  | 192 | 627  |
| 2年  | 17000 | 178   | 239    | 417   | 43    | 115  | 99  | 214 | 674  |
| 3年  | 16000 | 172   | 234    | 406   | 47    | 100  | 84  | 184 | 637  |
| 4年  | 15000 | 171   | 225    | 396   | 50    | 91   | 89  | 180 | 626  |
|     | 14000 | 17    | 11     | 28    | 3     | 4    | 3   | 7   | 38   |
|     | 13000 | 1     | 1      | 2     | 0     | 2    | 0   | 2   | 4    |
|     | 12000 | 1     | 0      | 1     | 0     | 0    | 0   | 0   | 1    |
|     | 11000 | 0     | 0      | 0     | 0     | 0    | 0   | 0   | 0    |
| 合 計 |       | 712   | 946    | 1658  | 170   | 423  | 356 | 779 | 2607 |

### ●大学院修士課程・博士前期課程

| 学年  | 研究科・専攻 | 文学研究科 |       | 人間科学研究科 | 音楽研究科 | 薬科研究科 | 合 計 |
|-----|--------|-------|-------|---------|-------|-------|-----|
|     |        | 英文学科  | 比較文化学 |         |       |       |     |
| 1年  | 1800   | 4     | 2     | 6       | 7     | 4     | 17  |
| 2年  | 1700   | 9     | 3     | 12      | 9     | 7     | 28  |
|     | 1600   | 2     | 1     | 3       | 1     | 0     | 4   |
|     | 1500   | 1     | 0     | 1       | 0     | 0     | 1   |
|     | 1400   | 0     | 1     | 1       | 0     | 0     | 1   |
|     | 1300   | 0     | 0     | 0       | 0     | 0     | 0   |
| 合 計 |        | 16    | 7     | 23      | 17    | 11    | 51  |

### ●大学院博士後期課程

| 学年  | 研究科・専攻 | 文学研究科 |       | 人間科学研究科 | 合 計 |
|-----|--------|-------|-------|---------|-----|
|     |        | 英文学科  | 比較文化学 |         |     |
| 1年  | 1800   | 0     | 0     | 0       | 2   |
| 2年  | 1700   | 1     | 0     | 1       | 0   |
| 3年  | 1600   | 0     | 0     | 0       | 0   |
|     | 1500   | 0     | 0     | 0       | 0   |
|     | 1400   | 0     | 0     | 0       | 0   |
|     | 1300   | 0     | 0     | 0       | 0   |
| 合 計 |        | 1     | 0     | 1       | 2   |
|     |        |       |       |         | 3   |

### ●科目等履修生

|     |   |
|-----|---|
| 学 部 | 6 |
| 大学院 | 0 |

### ●聴講生

|     |   |
|-----|---|
| 学 部 | 4 |
| 大学院 | 6 |

## 2017年度 就職決定状況

| 学 科        | 卒業者数 | 就職希望者数 | 就職決定者数 | 就職決定率       | 進学者数 | 就職率<br>就職決定者／(卒業者-院進学者) |
|------------|------|--------|--------|-------------|------|-------------------------|
|            |      |        |        | 就職決定者／就職希望者 |      |                         |
| 英 文        | 165  | 149    | 148    | 99.3%       | 3    | 91.4%                   |
| 総合文化       | 212  | 188    | 185    | 98.4%       | 5    | 89.4%                   |
| 音 楽        | 32   | 18     | 18     | 100.0%      | 4    | 64.3%                   |
| 心理・行動      | 95   | 80     | 80     | 100.0%      | 7    | 90.9%                   |
| 環境バイオサイエンス | 94   | 78     | 77     | 98.7%       | 6    | 87.5%                   |
| 合 計        | 598  | 513    | 508    | 99.0%       | 25   | 88.7%                   |

(2018年4月末現在)

2017年度卒業生の就職率（就職希望者に対する就職者の割合）は99%で、前年度を0.2ポイント上回りました。

2016年度の就職活動から学生のプレエントリーが3月開始、面接などの選考解禁が6月となり、「短期決戦就活」となりましたが、2017年度も変更はなく今年度も継続されています。

ここ数年企業の採用意欲は高く、学生にとっては「売り手市場」であったこと、2017年度は就職活動スケジュールに変更がなかったことなどにより、学生にとっては大きな混乱もなく就職活動がスタートしました。

就職状況／規模別では大企業（従業員1000人以上）への就職割合については47.4%と昨年度より6.1ポイント下回りました。このことは、従業員5000人以上の大企業が採用を手控えたことに起因しています。逆に中企業（従業員300名以上1000名未満）は25.8%で6.8ポイント上昇しました。

産業別では、金融・保険業が24.2%と前年を1.1ポイント下回りましたが、卸売・小売業が17.1%で前年を4.1ポイント上回り、次いで製造業、サービス業、運輸・郵便業、情報通信業が続いています。

以上の結果は、学生が各自の進路についてしっかりとと考え、その目標に向かって最後まであきらめずに取り組んだ結果だといえます。

キャリアセンターでは、学生が自身の将来について自ら考え選択できるよう、学ぶ場・知る場を数多く提供することを目的に、年間130回を超える大小のサポートプログラムを実施しています。今後も学生ひとり一人に丁寧できめ細かい指導を心がけ、より充実した支援を目指します。

(キャリアセンター課長)

**主な就職先****建設業**

積木ハウス／竹中工務店／三井ホーム

**製造業**

アイシン・エイ・ダブリュ工業／アルインコ／イトーキ／オリエンタルモーター／コスモエネルギー／グループ／コルゲ／サラヤ／島精機製作所／住友電気工業／ダイキン工業／ダイハツ工業／タカラバイオ／TASAKI／東芝エレベータ／日本バイリーン／任天堂／ハイレックスコーポレーション／フォクシー／ミキモト／UCC 上島珈琲／雪印種苗／雪印メグミルク／湯山製作所／ライオン事務器

**情報通信業**

NTT データ MSE／大塚商会／数研出版／スミセイ情報システム／T&D 情報システム／トランスクスモス

**運輸業、郵便業**

全日本空輸／ANA ウイングス／ANA 大阪空港／ANA 関西空港／ANA テレマート／日本航空／JAL スカイ／JAL スカイ大阪／ジェイエア／K スカイ／CKTS／ソラシドエア／西鉄エアサービス／羽田空港サービス／マカオ航空／東海旅客鉄道／西日本旅客鉄道／上組／キリングループロジスティクス／ケイラインロジスティクス／三菱倉庫／新日本海フェリー／一般社団法人日本海事検定協会／日本郵便

**卸売業、小売業**

青山商事／アズワン／岩谷産業／岡本無線電機／加藤産業／カネカ食品／クリヤマ／資生堂ジャパン／神明／ダイワボウ情報システム／トラスコ中山／日伝／阪急阪神百貨店／富士貿易／ボーネルンド／ホンダカーズ大阪／ユーシーシーフーズ

**金融業、保険業**

日本銀行／みずほフィナンシャルグループ／三井住友銀行／三菱UFJ銀行／りそな銀行／ゆうちょ銀行／イオン銀行／池田泉州銀行／関西アーバン銀行／近畿大阪銀行／みなど銀行／紀陽銀行／中国銀行／トマト銀行／愛媛銀行／四国銀行／大分銀行／鹿児島銀行／三菱UFJ信託銀行／大和証券／野村證券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券／尼崎信用金庫／但陽信用金庫／兵庫六甲農業協同組合／住友生命保険／大同生命保険／太陽生命保険／日本生命保険／三井住友海上あいおい生命保険／三井生命保険／明治安田生命保険／あいおいニッセイ同和損害保険／損害保険ジャパン日本興亜／東京海上日動火災保険／オリエントコーポレーション／セディナ／ペルソナ／三井住友カード／楽天カード

**不動産業**

イオンモール／近鉄不動産／みずほ不動産販売／三井住友トラスト不動産

**宿泊業**

ウェスティンホテル大阪／神戸ベイシェラトンホテル＆タワーズ／ヒルトングループ

**医療、福祉**

社会医療法人愛仁会 明石医療センター／独立行政法人国立病院機構 近畿グループ

**教育、学習支援業**

大阪医科大学／大阪音楽大学／兵庫県中学校教員

**サービス業**

クラブツーリズム／JTB 西日本／住友三井オートサービス／セコム／綜合警備保障／中央コンサルタンツ／一般社団法人日本自動車連盟／パーソルキャリア／バリューマネジメント／阪急交通社／PwC 京都監査法人／日立キャピタル NBL／マイナビ／三井住友ファイナンス＆リース／三菱電機ビルテクノサービス

**公務**

静岡県／大阪府／兵庫県／世田谷区／宝塚市／姫路市／佐用町／奈良市／かつらぎ町／紀の川市／東洋町

**主な進学先****英文学科**

鳴門教育大学大学院 学校教育研究科／神戸女学院大学大学院 文学研究科

**総合文化学科**

大阪大学大学院 人間科学研究科／大阪大学大学院 文学研究科／兵庫教育大学大学院 学校教育研究科／神戸女学院大学大学院 文学研究科

**音楽学科**

神戸女学院大学大学院 音楽研究科

**心理・行動科学科**

大阪市立大学大学院 文学研究科／大阪大学大学院 人間科学研究科／関西大学大学院 心理学研究科／神戸大学大学院 人間発達環境学研究科／武庫川女子大学大学院 文学研究科／神戸女学院大学大学院 人間科学研究科

**環境・バイオサイエンス学科**

信州大学大学院 総合理工学研究科／大阪大学大学院 生命機能研究科／福岡女子大学大学院 人間環境科学研究科／神戸女学院大学大学院 人間科学研究科／

## 2018年度 キャリアサポートプログラム（予定）

### ◆ 3年生対象

- 4/25(水) 就職ガイダンス①  
 5/ 9(水) インターンシップガイダンス  
 5/23(水) インターンシップ選考対策講座①  
 5/30(水) インターンシップ選考対策講座②  
 6/20(水) 社労士による「新社会人お役立ちセミナー」  
 7/ 4(水) 就職ガイダンス②  
 7/18(水) SPI 模試  
 7/31(火)～8/3(金)・6(月)  
     企業・業界研究ワークショップ  
 8/22(水)～24(金)  
     自己分析とコミュニケーション講座  
 8/27(月)～31(金) KC エアラインスクール【有料】  
 9/10(月)・11(火) 初期選考突破のための特訓講座：  
     エントリーシート編【有料】  
 9/12(水)～14(金) 初期選考突破のための特訓講座：  
     SPI 編【有料】  
 10/ 3(水) 就職ガイダンス③  
 10/10(水) 《就活ベーシック講座①》就活マナー  
 10/15(月)～17(水) 言語・非言語 Web テスト  
 10/24(水) 《就活ベーシック講座②》筆記試験  
 10/31(水) 《就活ベーシック講座③》  
     「自己 PR」入門  
 11/ 7(水) 《就活ベーシック講座④》履歴書  
 11/14(水) 《就活ベーシック講座⑤》  
     エントリーシート  
 11/21(水) 《就活ベーシック講座⑥》企業・業界研究  
 12/ 1(土) OG 訪問会  
 12/ 4(火)～7(金) 学内証明写真撮影会  
 12/ 5(水) 《就活アドバンスト講座①》  
     グループディスカッション  
 12/12(水) 《就活アドバンスト講座②》面接  
 1/16(水) 《職種研究講座①》営業職編  
 1/23(水) 《職種研究講座②》事務職編  
 1/28(月) 就活総おさらいセミナー  
 1/31(木) 《就活アドバンスト講座③》  
     グループディスカッション 実践編①  
 2/ 4(月)～8(金) 《就活アドバンスト講座④》  
     面接体験講座  
 2/ 4(月)～6(水) 言語・非言語 Web テスト  
 2/ 6(水) 就職ガイダンス④  
     MOVICATION：面接編  
 2/ 7(木) 就職ナビの使い方セミナー  
     企業・業界の選び方セミナー  
 2/ 8(金) 《就活アドバンスト講座⑤》  
     グループディスカッション 実践編②

2/13(水) 初期選考直前対策講座：玉手箱編

初期選考直前対策講座：

履歴書・ES 編【有料】

2/14(木) お勧め企業紹介セミナー：

学内セミナー参加企業編

2/15(金) お勧め企業紹介セミナー：OG 企業編

3月 学内企業セミナー

※このほか、後期に自己分析サポート面談、ゼミ訪問等を実施。

### ◆ 4年生対象

- 4/ 4(水) 学内企業セミナー  
 4/ 6(金) 模擬面接講座①  
 4/13(金) 模擬面接講座②  
 4/19(木) 学内企業セミナー  
 4/20(金) 模擬面接講座③  
 4/23(月) 就活総おさらいセミナー  
 4/24(火) 学内企業セミナー  
 4/26(木) 模擬 GD 講座①  
     学内企業セミナー  
 5/11(金) 模擬面接講座④  
 5/18(金) 模擬面接講座⑤  
 5/24(木) 模擬 GD 講座②  
 5/25(金) 模擬面接講座⑥  
 6/ 1(金) 模擬面接講座⑦  
 6/15(金) 模擬面接講座⑧  
 6/22(金) 模擬面接講座⑨  
     6月～9月 ホンキの就職

※キャリアカウンセラーによる面談は前期中毎日実施。以降も必要に応じて模擬面接講座、振り返りの講座等を実施する予定。

### ◆ 2年生対象

- 6/22(金) 進路ガイダンス  
 1/25(金) 就職ガイダンス

### ◆ 1年生対象

- 7/ 6(金) キャリアガイダンス

### ◆ 1～3年生対象

- 5/18(金) 公務員ガイダンス①  
 5/25(金) 公務員ガイダンス②  
 6/ 8(金) 公務員受験対策講座説明会  
     神戸市によるガイダンス  
 10月～1月 仕事発見セミナー（金曜日）  
 9月～1月 業界探求セミナー（金曜日）  
 2月 企業研究セミナー

## &lt;受入れ留学生報告&gt;

## 先生方と学生の皆さんへ

ボーリンググリーン大学交換留学生

私は大学に入った時から日本に留学したいと思っていました。しかし、その時はまだ日本語の勉強は始めていませんでした。その後大学の2年生から日本語の勉強を始めました。そして、神戸女学院大学に留学したいと思うようになりました。その理由は、私の先生の母校だったからです。また、神戸女学院のバディシステムは役に立つとも思いました。去年の9月ついにアメリカのオハイオ州から来日しました。その時は寂しかったですし、とても緊張していました。だんだん日本での生活に慣れていくましたが、慣れるまでの時間は大変だったので、優しくしてくださった学生の皆さんと先生方に感謝しています。

留学中はいろいろなことを楽しみました。生け花クラブと琴クラブに入ることができて、面白い授業も取って、日本文化をたくさん学びました。E-ZONEでは優しくて英語が上手な英文学科の生さんとも出会えました。また、私は旅行が大好きなので、日本各地へ行ってみようと思い、実行しました。札幌の雪祭りや、長崎のきれいな風景などを見たり、東京や京都を観光しました。たくさん美しい日本を見ましたが、やはり西宮が日本で一番いいところだと思います。

このように、私は日本での生活を満喫したので、元の生活にすぐ戻るのは難しいかもしれません。帰ったら、家族とベットに会いたいです。しかし、日本に来ることができて本当によかったです。アメリカの大学を卒業した後、もう一度神戸女学院大学に戻って来たいです。もちろん、それまでに、皆さんのどなたかがアメリカにいらっしゃったら、会いましょう！国際交流センターのスタッフの皆さんとバディの皆さん、そして先生方、私を助けてくださいありがとうございました。琴クラブ「鶯」と生け花クラブの皆さん、本当にありがとうございました。

## 留学生活

広東外語外貿大学交換留学生

思えば日本に、神戸女学院に来てからもう半年以上が過ぎた。ここでの生活も、大分慣れてきた。

日本に来る前、大学の日本語の授業はほとんど日本語のみを使っていたが、授業の内容を説明しづらいときは、やはり中国語に頼る場合が多くかった。だが、日本での授業は、単に日本語の文法や語彙の授業ではなく、日本語で他の知識を勉強する。しかもここは関西だから、先生が使っている日本語はたいてい標準語ではなく、関西弁やほかの方言が混ざっている。はじめは、聞き慣れた日本語ではないから、少しつまずいたが、だんだん他の方言を聞くことに面白さを感じた。先生の言葉の意味を考えながら他の知識を勉強するのも悪いことではない。今では日本語のみの授業に慣れてきたし、色々な方言も少しだけだが、覚えてきた。

私にとって、留学の一番の難関は授業ではなく、寮生活だと思う。中国では幼稚園から大学までずっと地元の学校だったから、今まで寮生活を送ったことはなかった。料理、洗濯などの家事のしかたは知っているが、実際にしたことはなかったので、心細かった。来たばかりのときは、殆どコンビニや外食で過ごした。おかげで何キロか痩せた。これではダメだと思い、最近は自炊を始めた。授業もあるし、簡単なものしか作れないが、いつかチャンスがあればレシピを見て、もっと挑戦し甲斐のあるものを作ってみたいと思っている。また中国の大学の友達などは東京に行ったか、中国に残ったので、私は一人で日本に来た。一人でいることに慣れて、最初はなんでも一人で乗り越えてきた。しかし、寮の部屋替えに伴い、中国に興味がある子がたまたま私と同じ階になって、私に声を掛けてくれた。その子と友達になって、一人じゃなくても居心地がいいと思いました。

ここで学んで、見た色々なものは、かけがえのない私の宝物だ。

## かけがえのない一年間

広東外語外貿大学交換留学生

時間の経つのは本当に早いものです。2017年9月に日本へ来たのですが、あっという間に留学生活は過ぎ、帰る日が近づいてきています。今振り返ってみると、いろいろなことが頭の中に浮かんできます。

まず、授業ですが、私は文学研究科で主に2つの授業を取りました。1つは修士論文についての授業でした。指導教授である河西先生はとても優しくて、ユーモラスな一面もありますが、一旦論文など学術のことになると、細かいところまで厳格に、強い責任感を持って指導してくださる先生だと思います。最初は論文でたくさんの課題が出てきたので、私は少し気を落としましたが、先生は何度も励ましてくださいり、一字一句、論文を丁寧にみてくださいました。先生のおかげで、私はだんだん自信を持つようになり、最後まで論文をやり遂げることができました。もう1つは比較文化学総合演習でした。この授業では自分の専攻に限らず、文学、言語学など様々な研究分野の先生方から指導を受けることができます。私は修士論文を書く過程で貴重な意見をたくさんいただき、日本語能力も知らないうちにかなり上達しました。河西先生を始め、ご指導くださった先生方に心から感謝の意を表します。

また、授業以外でもいろいろな活動に積極的に参加しました。例えば、西宮市国際交流協会のスピーチコンテストに参加しました。「たまには人を頼ってもいい」という非常に普通で、日常生活における極めて小さなことを発表したのですが、思いがけず2位の「優秀賞」をいただきました。それまでずっと自分の日本語能力に自信がありませんでしたが、いい成績を認められてとても嬉しかったです。これからまた他のことに参加する勇気も湧いてきて、本当に日本に来てよかったです。

最後に、修士論文を書き終わり、少し余裕が出てきたので、自分の生活を豊かにするために、ダンス部に入りました。もともとダンスに興味を持っていたので、入部できて満足しましたし、たくさんの日本人と交流することもできました。神戸女学院で何人も友達を得ましたが、そろそろ留学が終わりを迎えるので、なんだか寂しい気がします。これからもこの一年のかけがえのない留学生活を貴重な思い出として頑張っていきたいと思います。

## 言葉で表現することができない経験

梨花女子大学交換留学生

私は2017年9月から留学しました。神戸女学院大学を選んだ理由はいろいろあります。まず、交通が便利だという点です。二つ目の理由は大学の周辺の景色がとても美しかったからです。東京のように大都市ではなく、大都市から少し離れている平和なところでした。実際、西宮は移動は便利ですが、静かで外国人が多くないところでした。それが私にとっては、より挑戦的な経験となりました。すべての状況で、日本語を駆使しなければならず、自分の生活について努力するようになりました。

ここで留学をするうえで最も大きく感じた点は自分自身の成長です。一人でいる時間をきちんと過ごす方法、一日を充実させる方法、健康に生きていく方法など自分に集中する時間を多く持つようになりました。

外国人交換留学生が多い方ではなかったのですが、むしろそれが言語の実力を高めるうえで役立ったと思います。生活のために全ての場所で日本語を使用したからです。そのため、私が望んでいた留学生活をすることができました。そして神戸女学院大学の学生さん達は外国人留学生に関心を示し、いつも親切してくれました。国際交流センターの方をはじめ、学生さんたちは私に困難なことがあったらいつも私を助けてくれました。それで私は感動する時が多かったです。

不慣れな場所で、こんなに長い間一人で住んだのは初めてですので、最初は心配が多かったです。しかし、大学生活の中でこのような機会があったからこそ、成長することができたと思います。4年生での留学は遅かったかなと思いましたが、ここで得た経験は、はるかに貴重でした。さらに他の国でも再び生活してみたいと思ったりしました。今までの人生で後悔の残らない選択だと思います。私には忘れられない思い出になるはずで、いつまでも感謝します。

## &lt;中期英語留学報告&gt;

チャタム大学

## 語学留学を通して学んだこと

文学部 英文学科 4年生

私は、半年間のチャタム大学での留学を通して、様々なことを学び、成長することができました。当初は、英語をほとんど聞き取れず、コミュニケーションをとるのにとても苦戦しました。もっと勉強をしてこればよかった、と後悔することもありましたが、周りの支えのおかげで、前向きにどんなことにも挑戦していこうと思えるようになりました。自ら積極的に行動することで、自然と友だちも増え、毎日楽しく、本当に充実した生活を送ることができました。

私のクラスは、ほとんどが日本、サウジアラビアからの留学生でした。最初の頃は、なかなか授業にもついていけず、自分の想いを伝えることも難しい状態でした。日本人が黙ってしまう中、アラブ人のクラスメイトは、皆次々に意見を発していました。時には意見が飛び交いすぎて、授業が進まなくなってしまうこともありましたが、彼らのおかげで授業はいつも明るく楽しい雰囲気でした。そして、私自身も彼らの伝えようと努力している姿に感化され、積極的に授業に参加できるようになりました。

チャタム大学は、本当に人が温かく、笑顔で声をかけてくれる人がたくさんいました。先生方も生徒一人一人のことをしっかり見てくれていて、授業内容も生徒のレベルや興味に合わせてくれました。私は、周りの友だちや先生方に恵まれ、本当に楽しい留学生活を送ることができました。この経験を活かして、これからもっと成長ていきたいです。



私たちのためのフェアウェルパーティー

## &lt;中期海外研修報告&gt;

クイーンズランド大学

## 出会い、学び、世界へ！

文学部 英文学科 4年生

私は、オーストラリアのブリスベンに7か月間留学しました。クイーンズランド大学はとても広く、緑あふれる美しいキャンパスで毎日ワクワクしながら通いました。最初はリスニングに苦労しましたが、親切な先生方に支えられ、積極的な多国籍の留学生に刺激を受けながら勉強に励みました。ホームステイを経験し、ホストファミリーとの出会いはかけがいのない思い出となりました。特にホストファザーはいつも私を楽しませてくれて、英会話の相手を毎日してくれました。週末になるとファミリーの家族が集まり賑やかでした。娘のように接してくれて本当に感謝しています。留学生活に慣れてくると海外の友人ができると週末は一緒にBBQをしたり、ビーチに行ったりと、豊かな現地の自然を大満喫しました。4週間のインターンシップでは、学校に派遣され、現地の中高生の日本語クラスのサポートに取り組みました。テキスト作成や日本文化に関する授業をおこないました。生徒たちと日本語と英語を通じてコミュニケーションが取れて嬉しかったです。最終日には彼らから日本で聴く何倍もの“Arigatou!”との言葉をもらい、宝物となりました。この経験を通じて主体的に考え、行動する力が身に付きました。文化が全く異なる様々な国の留学生と英語を通じて意思疎通することで新しい価値観や考え方を吸収できました。素晴らしい出会いを経験し、人生において最も糧となる機会を与えていただき、心から感謝しています。



UQ の真夏のクリスマスパーティーにて

カリフォルニア大学アーバイン校

**カリフォルニアでの学び**

文学部 英文学科 3年生

2017年9月から2018年3月の7カ月間、UCIでの中期語学研修に参加しました。アーバインはカリフォルニア気候で日本食スーパーもあるなど、あまり日本とのギャップも感じることなく生活しやすい土地でした。私のクラスはサウジアラビア・中国・台湾・韓国・ロシアなど非常に多国籍な環境で、例えばサウジアラビアのクラスメイトがアラビアンコーヒーを振る舞ってくれるなど、クラスメイトから様々な国の文化を学ぶことができました。また生徒と先生の距離も近く、遠慮することなく質問できるようなアットホームな空気感でした。特に、グラマー／ライティングの授業ではエッセイの書き方を一から細かく個人個人で指導していただき、神戸女学院に帰ってきてからも課題のレポートの執筆などに、とても役に立っています。住居の面では、最初の1カ月はベトナム人夫婦のもとでホームステイをしていました。ベトナム人とはいえども会話はもちろん英語でしたが、普段授業などで聞いているアクセントと異なった英語であり、カリフォルニアには多種多様な人々が住んでいることを肌で実感しました。残りの半年は、アパートメントを借りて他の留学生との同居生活を送りました。わたしのルームメイトは中国人で、彼女たちと関わっていくうちに自分が持っていた中国のイメージは実際とは異なることを痛感しました。7カ月の研修を通して、英語を学び、習得していくとともに、より広い視野で物事を見るべきことを知りました。

カナダ・ヨーク大学

**たくさんの発見と経験に満ち溢れた半年間**

文学部 英文学科 4年生

研修先であるトロントは多文化社会であり、移民の受け入れも更に盛んになっているので、「ネイティブ」と「移住者」そして「外国人」の違いが無く、現地で生まれ育った人でも、観光客でも、どんな人にとっても過ごしやすく、個性を出して生きることのできる街だなという印象を持ちました。研修という形でトロントで半年間を過ごし、言語習得中の者の観点から、一番重要だと気づいたことは、母国語でない言語を話す時や、日本語話者でない相手と話す時は、伝える気持ちと相手を理解する気持ちが一番重要なことです。確かに、ネイティブのような綺麗な発音や、正確な文法で意思疎通ができるに越したことはありません。しかし、その国で生まれ育っていない限り、発音やくだけた表現など、越えられない言語の壁があります。一番大切なことは相手の文化や言語を尊重し、また同様にこちらのことも理解してもらうこと。彼らから直接聞く文化や考え方を知ることや、自国の文化や言語の違いを知ることは、相互理解に繋がります。お互いの背景を理解することは外国ではもちろん、日本においても同じだと思いました。様々な視点からの考え方を学ぶことができたのは、現地で切磋琢磨した仲間との日々があったからです。そんな日々を過ごせたのは、家族や日本の友人、研修をサポートしてくださいさった国際交流センターの方々のおかげです。この研修で得た感性や価値観を大切に、これから的生活に活かしていきたいです。



現地の学生と日本人の友人と

## &lt;語学研修報告&gt;

英国・ヨーク大学

## 語学研修における学び

文学部 総合文化学科 3年生

イギリスでは日本でできない経験をすることができました。普通に生活するだけで、日本との違いを感じられ良い刺激をうけました。例えば、日本では積極的に発言し、自発的に行動することが少ないと私は思います。しかし、イギリスでは積極的に行動することが普通だったので、今回の研修で自分から行動する大切さを学びました。大学内の講義において、先生はプレゼンの仕方を細かく教え、アドバイスをしてくれました。しかし、プレゼンのテーマを決めたりそれに関して調べたり、インタビューするのは完全に学生たちのみで取り組みました。学生主体で取り組むことにより個性的なプレゼンが生まれ、結果的にとても面白い発表になりました。

また、大学内の取り組み以外でも積極性が必要とされる場面がたくさんありました。イギリスで生活するにおいて、最初はわからないことばかりでした。家への帰り道やバスの乗り方がわからなかつたとき、町の人には何度も質問することで解決しました。慣れない土地で不安だらけで、自分のつたない英語ではなかなか伝わらず苦しい場面もありました。しかし、町の人やホストファミリー、大学の先生や学生は根気よく聞いて、私を助けてくださいました。その時会話において必要なのは、語学力だけでなく伝えたいという気持ちとそれを実行する力だと思いました。このようなイギリスでの経験や気付きをこれからに活かしていきたいです。



リバプールにて

クイーンズランド大学

## 語学研修を終えて

人間科学部 環境・バイオサイエンス学科 3年生

オーストラリアでの生活は新鮮そのものでした。聞こえてくる言語はもちろん英語のみ、見るもの全てが日本と違う環境に興奮しました。海外留学生と一緒にクラスで学び、授業時の発言の多さは日本では体感できないものでした。彼らに圧倒されつつも、同時に刺激を受け、いつも受け身であった自分から自発的に発言、行動するようになりました。それにより自分の新たな一面を知ることに繋がりました。

また、毎日家族全員で食事をとりながら、会話をする時間が一番好きな時間でした。この時間にもっと話したい、伝えたい、理解したいと思ったことで留学する以前より自然と積極的になったように感じます。

オーストラリアで過ごした5週間はなかなかコミュニケーションが取れないからこそ、英語の必要性を強く感じました。そして、たくさんの方々と出会えたことで、物事を多面的・多角的に捉え、考えるきっかけになったと思います。

研修を通して、もっと日本のことを知る必要があると感じました。ホストファミリーや同じ留学生の友人と政治や経済・医療システム等の話をしているときに、「日本の場合はどうなのか。」と聞かれることが度々あったことで、さまざまな分野について考える機会をこれから作っていこうと思いました。そして色々な国から学びに来ている学生との交流もでき、いつも自国のみの生活から一変、感じ方、物の見方と価値観を見直す良い機会でした。



UQ のキャンパス内

広東外語外貿大学

## 中国での学び

文学部 総合文化学科 3年生

広東外語外貿大学へ3週間の語学研修に行きました。大学に入学して中国語を頑張りたいと強く思っていたので参加しました。初めは中国語を学びたいという思いがあるものの、あまり良いイメージが無かったので不安ばかりでした。でも実際に行ってみると、みんな温かくとても友好的でした。うまく中国語を話すことができなかつた時も、どの人も笑顔で一生懸命何を伝えようとしているか聞いてくれました。

広東の大学に行って驚いたことは、広東外語外貿大学と神戸女学院大学の関わりの深さです。日本語学科の学生が何回も歓迎会を開いてくれたり、色々なところに連れて行ってくれたり、たくさんのこと教えてくれました。例えば、学校のスーパーで日本語を話しながら物を探している時には「日本人の方ですか？何か困ったことがあれば何でも言ってください。」と声をかけてもらいました。私たちが語学研修に来ていることを授業で紹介してくれていたようでした。学校全体がサポートしてくれているのだと感じることがたくさんありました。授業では、他の国から来ている人たちとも親しくなり、とても楽しく勉強になる充実した時間でした。

この語学研修に参加して、中国語をもっと勉強したり、中国をもっと知りたくなりました。だから9月に行われるプロジェクト科目に参加し、もう一度中国に行くことに決めました。このような貴重な経験ができ周りの方々には感謝しています。



日本語学科の友だちとの観光

梨花女子大学

## 自分の成長につながった留学

文学部 総合文化学科 3年生

私は、梨花女子大学に3週間の語学研修に行ってきました。韓国語については、大学に入ってから学び始めたため、現地の授業についていけるか不安でした。しかし、優しくて面白い先生、明るいクラスメイトに囲まれて、毎日楽しく過ごしました。

月曜日から土曜日の午後に語学の授業がありました。最初は、クラスメイトの語学力の高さや、積極的な姿勢に圧倒されました。それと同時に、私も負けていられないと思い、授業の予習をきちんとして、少しでも授業を効率良く受けられるように頑張りました。意識の高いクラスメイトに囲まれて、自分の内面も磨かれたような気がしました。語学の授業以外にも、文化授業として、プルコギを作りに行ったり、現地の学生と共に、お互いの文化を理解する授業などもありました。

授業だけでは話す力が養えないので、学生バディとの交流を生かしました。現地の学生にマンツーマンで教えてもらいました。日を重ねていくうちに自分の伝えたいことを伝えられるようになっていき、自分の韓国語が通じることに喜びを感じました。学生バディとは、一緒にご飯を食べに行ったり、プレゼント交換をしたりなど、楽しい時間を過ごしました。

韓国に留学することで、実際に韓国語を使う機会を得られて、自分の語学力を高める良い経験になりました。語学学習以外にも、素敵なクラスメイトや先生に出会えたことも、留学でのいい思い出になりました。



韓国料理作り体験

## &lt;私の研究&gt;

## 私の研究

白井 由美子



高等学校で教鞭をとっていた経験から、現在本学英文学科の教職課程を担当させていただいている。その中に「英語科教育法」という科目がありますが、これは学生が教壇に立った時のための準備科目であり、理論と実践の両面から成り立っています。その授業に還元するべく中学校、高等学校での英語教育の方法に関する事柄が私の研究課題となっています。

英語教育は今大きな転換期に来ています。2020年度から始まる新しい学習指導要領でも「読んで訳す」方式から「コミュニケーション」重視へ、さらには「読む・聞く・書く・話す」という4技能から「対話(interaction)」を加えた5技能を身に付ける方向へと変化しています。そういう変化に伴い、教員の授業での役割も変わりつつあり、僭越ではありますが人間教育も課せられた使命かと思っております。

また、小学校でも英語が3年生から必修となり、5、6年生では正式科目となる中、英文学科教職課程4年次学生は10年前から西宮市内の2つの小学校で英語活動を行っています。小学校から中学校へとつながる英語教育に役立つ活動を追究しています。

昨年度からはデフォレスト先生の書簡の解説作業に関わらせていただいています。先生の英語教育に対する強い信念を読ませていただくことにより、当時の神戸女学院に関係する方々の思いや社会状況を知り、さらには本学英語教育の伝統と歴史を感じ、その意義深さに感銘を受けています。先生の文書によりますと、その当時、高いレベルの英語教育のおかげで、神戸女学院で学んだ学生は教員採用試験を免除されていました。本学からたくさんの優秀な教員が輩出され、その卒業生が各学校で活躍しておられたそうです。今の学生も負けてはおりません。先輩方に続けるよう、学生と共に切磋琢磨してまいりたいと思います。

(英文学科准教授)

## 私の研究

安田 友紀



私は、「アダプテッド・スポーツ」「ダンス(ダンスマーブメント・セラピー)」を専門分野とし、実践研究に取り組んでいます。アダプテッド・スポーツとは、対象者のニーズや能力に合わせ、ルールや用具等を工夫するスポーツであり、障がいの有無や年齢、性別を超えて多様な人々が共に楽しむことを目標とします。そして、私が実践研究として取り組んでいるダンスは、身体や動きを介して他者と“コミュニケーション”をはかることを大切にし、参加者自身が動きを“つくる”ダンスです。

運動を苦手とする小学生、障がい児者や、その兄弟姉妹、そして児童思春期精神科における入院患児と、様々な方を対象に実践現場を持たせていただいています。そして、参加者が他者とコミュニケーションをはかるためにはどのようなダンスプログラムが良いか、参加者が主体的に参加できる(したくなる)環境とはどのようなものか試行錯誤を重ねています。また、各々の実践の発展として、「出会い・繋がり・広がる」というテーマのもと、地域交流をねらいとしたインクルーシブ舞台の創造「みんなでつくる発表会～地域・教育・医療の連携～」を4年に渡り開催しました。

2歳から70歳を超える参加者が、「歩く」「立つ」「座る」などの日常動作を主とした動きを自分で“選択”し、自分のありのままに表現します。動き方や動く速さなど十人十色ですが、時間と空間を共有し、ノンバーバルコミュニケーションをはかる過程において、一体感が生まれます。そして、一人ひとりが古今東西、唯一無二の存在であることを体感し、「多様性を祝福し、受容する」貴重な舞台をみんなでつくることができました。このような現場をもとに、今後も多様なニーズに寄り添いながら、実践研究を積み重ねていきたいと思います。

(体育研究室専任講師)

## &lt;ゼミ紹介&gt;

**「一生もの」の知的関心を培うこと**

藏中 さやか

私のゼミでは、日本古典文学作品を対象にして、作者論、作品論、表現や時代背景、文化等を幅広く学びます。長く愛され読み継がれてきた古典文学作品には「日本の風景」や「日本のこころ」、「日本の美意識」が溢れています。それらに触れ、研究的視点から考えることによって喚起された知的関心は、生涯、愛し続けられるものごとの出逢いに繋がっていきます。大学での学びとは短絡的な知識の集積や技能の修得だけでなく、今後の人生において、自分の支えとなるものや礎となりよりどころとなる考え方を見つけること。これはゼミ活動を通して伝えたいと思っていることの1つです。

例年、3年前期に作品の精読・鑑賞をおこない、多様な古典文学の研究手法を学び、後期には、「くずし字」の読み方も修得します。資料を作成して自分の考えを発表し質疑応答を重ね、発見や共感を体験し、調べ学習を超えた自分なりのものの見方や発言ができるようになったころ、卒業研究がスタートします。ゼミでの学びの証である卒業論文は、独自に編集している卒業論文集『たまゆら』に掲載しそれぞれ生全員で共有しています。ゼミ生主体で臨地ゼミを企画し文学遺跡探訪や寺社拝観等に出かけ（最近の探訪先は伊勢、和歌山、京都等）、また学祭での出店を楽しむこともあります。

ゼミというまとまりの中で、それぞれが学生時代ならではの活動を繰り広げ、人間関係を育み成長してゆくさまをこれからも見守っていきたいと思っています。

(総合文化学科教授)



2018年2月、4年生と八坂神社前にて

**「わたしの石」探し**

鶴田 英也

私の専門にはイメージの心理臨床学という名前をつけています。私のゼミに入ってくる3年生たちには、イメージの力というものを感じてもらう入口体験として、初めに「わたしの石」探しというワークをしてもらっています。することはいたってシンプルで、学内を歩き回り、「わたしの石」だと思う石を一つだけ探していくというものです（もちろん敷石や岩のようなものは禁止しています）。なぜ石かについては、ありふれてどこにでもある、投影しやすい、変容の象徴であるなどの理由を毎回説明しています。探してきた石を机に並べて各々が紹介していくのですが、選んだ理由は色、形、大きさ、模様、手触りなど様々です。また、これもある種の自己紹介ですが、通常の自己紹介と違うのは、他者に紹介され、受け止められるのは、「わたし」とあると同時に「石」だという点です。その辺に転がっていた何でもない石が「わたし」に選ばれることによって突如何か特別な「石」になる。そしてそれは、「石」が「わたし」を選ぶということもあります。「石」には色々な「わたし」が投影されますが、私が毎年学生たちに言うのは、石は硬くて変わりにくいからこそ変容の象徴であり、磨くことに意義がある、そこに心理学があるということです。ちなみに、集められた石たちは、それぞれに扱いに困ってしまうことがあるようなので、研究室の箱庭のアイテムとして使わせてもらうことにしています。

(心理・行動科学科准教授)



歴代の「石」たち

## &lt;課外活動紹介&gt;

[クラブ]

## 放送部

部長

[クラブ]

## ゴルフ部

主将

## 放送部の活動

私たち放送部は、3学年合わせて28名、毎週火曜日に活動しています。高校から放送部員として頑張っていた人もいれば、大学から始めた人もたくさんいます。主な活動は、毎週のミーティング、月1回のラジオ収録、神戸交流会、行事ごとの屋台運営や他部活の発表会での司会です。

特に力を入れているのは、ラジオ収録と神戸交流会です。ラジオ収録は、月に1度、西宮にある「さくらFM」にお邪魔し、『キャンパスイン西宮』という番組に参加させていただいている。基本的に話す内容は自由なのですが、その月にあった行事や、授業のことなど神戸女学院の良さが皆様に伝わるよう、毎回試行錯誤をし、収録しています。この番組は毎月、第3土曜・日曜23時から「さくらFM」にて放送されており、是非聴取していただけたらと思います。また、神戸交流会とは、年に1回、県内の大学の放送部が集まって作品の発表をおこなう会です。毎年、様々なテーマを決め、各大学そのテーマに沿って作品を作ります。今年の全体のテーマは「平」で、私たちは平凡な女の子が特別なものを見つけるといった内容のラジオドラマを制作しました。他の大学の作品を見ることで、たくさんの良い刺激を受けることができます。

このように、学外での活動を積極的におこなっております。今年度からは、総合文化学科ホームページのラジオも放送部の部員がパーソナリティを務めていますので、是非注目していただきたいです。



ラジオ収録後の記念写真

## 『KC. GOLF. CLUB』

現在、神戸女学院大学ゴルフ部は、3年生4名、2年生8名の12名で活動しております。新学期ということで5名の部員が増え、まだまだ新体制のゴルフ部は大きくなりそうだなど、部員一同ワクワクしております。

それでは、ここから私たちの練習内容をご紹介します。学校のある普段の練習は、火曜日と木曜日の放課後に2つの打ちっぱなし場で、打球練習を行っています。ゴルフの基本となるアイアンの練習に最も時間を使っており、コーチやOGの方に教えていただいたこと、またそれぞれが調べて勉強したことなどを参考に、練習しております。

長期休暇には週に2日、毎年お世話になっているゴルフ場でラウンドをします。ショートコースなので、1年生には特にいい環境であり、部員一同本当に良い練習をさせていただいております。そのラウンド練習を重ね、休暇の後半には4泊5日の合宿をおこないます。毎朝6時スタートの1日1.5ラウンドとハードなスケジュールですが、それに負けまいと、部員は普段の練習の何倍も熱心にボールを打ち込んでいます。合宿を通して、部員の仲も深まり、スキルも上達し、それぞれがたくさんのことを見ることができます。

親の影響で大学からゴルフを始めた部員がほとんどなので、実力としましては、まだまだ質の高い練習が必要なので、礼儀やマナーを大切に、これからもチームとして上を目指せるよう練習に力を入れていきたいと思っております。



打ちっぱなし練習での部員

## 中高部報告

### 第7回高校生スピーチコンテストに出場して

高等学部 2年生

私は ITC カウンスル No.3 主催の第7回高校生スピーチコンテストに出場し、英語の部で優勝しました。

英語のスピーチの練習をしていて思ったことは、語学の習得は身体のトレーニングの要素が大きいということです。英語の文章を読む、書く、は頭の中でできますが、話す、というのは、表情、抑揚、強弱、ジェスチャーなど身体の動きと一体だからです。私はバレエをしていますが、どこか相通ずるものがあるように感じました。

英語は音の高低差や強弱がはっきりしているのに対し、日本語は、単調な音で話されます。意識して話さないと、平面的な日本語発音の英語になってしまいます。これらのことと解消するためには、声の音量だけでなく、表情から身振りまでなりきって何度も練習しました。バレエも表現するテーマに沿って手の先から顔の表情まで全て一体となって表現するのでそういうところが似通っていると感じたのです。

私は人前で喋るということがあまり得意ではなく、初めは先生の前で練習する時でさえ緊張するくらいでした。これから時代、文化の異なる人たちとコミュニケーションをとり、協働していくために、自分の考えをはっきりと伝えねばなりません。そういう点でも今回の経験はとても有難かったです。

最後に、私がスピーチコンテストに出るにあたり関わってくださった全ての方々に御礼を申し上げます。

### 手作り絵本コンクールへの挑戦

高等学部 3年生

S 手芸部は、兵庫県立こどもの館主催の平成29年度手作り絵本コンクールに応募し、18歳未満の部でこどもの館優秀賞をいただくことができました。バザーや文化祭のための手芸品の制作もとても楽しかったのですが、手芸部のみんなで何か一つの形に残るものを作りたい、という思いから、2つのコンクールに挑戦することとなりました。コンクールへの応募は、今回が初の試みでした。

夏休みから制作に取り掛かりましたが、文化祭や個人で応募した『ホームソーアイニングコンクール』とも時期が重なったこともあり、S2 3人、S1 1人の計4人という少人数で完成させるのは大変な時もありました。しかし、少人数だからこそ全員の意見を取り入れることができました。絵本の物語の内容や、細かな装飾などを考えながら作るのは、とても楽しかったです。大人から子どもまで、読んだ方が楽しめるように、手触りなども意識し、立体感のある作品に仕上げられたことが、受賞につながったのではないかと思います。妥協せず、最後まで楽しみながら手芸部全員で取り組んだことを評価していただき、とても嬉しく思います。

最後になりましたが、コンクールへの参加を応援してくださり、様々な方面から支えてくださった顧問の先生方、手芸部のみんな、本当にありがとうございました。

## JAXAエアロスペーススクールに参加して

高等学部 2年生

私は3月26日から4泊5日で、種子島エアロスペーススクールに参加してきました。チームで協力して宇宙ミッションに取り組むJAXA（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構）主催の体験型宇宙教育プログラムです。今回のテーマは「2040年に打ち上げるロケットとその射場」でした。全国各地から24名の高校生が集まり、4名ずつのチームに分かれでテーマに取り組みます。私たちは、近年、飛行機等に採用されている軽量で頑丈な新素材CFRPを使用することで燃料を減らしてコストを削減しようと考えました。他のチームからは、水の抵抗を受けにくいサメの肌と同様の構造をロケットの先端に使用することで、空気抵抗を減らす案や、電気自動車の技術をロケットに応用する案などが出ました。自分一人では到底思いつかないようなアイデアが次々と生まれ、本当に刺激的な5日間でした。グループディスカッションに加え、ロケットに関する講義や施設見学、実際に小型のモデルロケットを打ち上げる実習もおこないました。私は地学が好きなのでこのスクールに応募したのですが、実は宇宙分野に特別な興味があったわけではなかったので、初日は皆の豊富な知識量や意欲の高さに圧倒され、戸惑いました。しかし、自分の得意な地質学の知識を生かして、チームにどのように貢献できるのかを考えようになってからは、とても有意義な時間を過ごすことができました。宇宙が大好きな人はもちろん、そうでない人も楽しめます。是非、参加してみてください。

## 中高部図書室報告

### I. 2017年度の主なできごと

- (1) 藏書点検 2017年7月14日(金)～26日(水)  
のうち8日間  
読書会 2018年1月31日(水) J1～S2

### II. a 2017年度増加図書冊数（資産化図書）

|       | 購入 | 寄贈 | 移管 | 合計 |
|-------|----|----|----|----|
| 和漢書   | 9  | 0  | 0  | 9  |
| 洋書    | 0  | 0  | 0  | 0  |
| 合計（冊） | 9  | 0  | 0  | 9  |

### b 1972年以降受け入れ図書の蔵書冊数の増減（資産化図書）

|                 |        |
|-----------------|--------|
| 2017年度 増加数      | 20     |
| 2017年度 除籍数      | 684    |
| 蔵書数（冊）          | 7,761  |
| c 消耗図書費の蔵書冊数の増減 |        |
| 2017年度 増加数      | 1,962  |
| 2017年度 除籍数      | 4,677  |
| 蔵書数（冊）          | 55,513 |

### III. 2017年度貸し出し冊数

|          |        |
|----------|--------|
| J 1      | 4,853  |
| J 2      | 3,272  |
| J 3      | 1,322  |
| S 1      | 2,022  |
| S 2      | 227    |
| S 3      | 285    |
| 教職員      | 647    |
| 大学生・大学院生 | 105    |
| その他      | 57     |
| 合計（冊）    | 12,790 |

貸し出し日数 209日 1日平均 61冊

(中高部図書室司書教諭)

## 2018年度中学部入学試験結果報告

日程：2018年1月13日(土)・15日(月)

| 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 |
|------|------|------|------|------|
| 135  | 249  | 248  | 159  | 149  |

※学報No.180(2017.7.7発行分) p.44 追加

2017年度中学部編入学者数 1名

(中高部事務室)

## 2018年度中高部受け入れ留学生

本年度は、S1に1名、S2に1名、計2名の留学生を受け入れています。

S1B組に在籍している生徒は、オーストラリアの姉妹校 Methodist Ladies College (MLC) の生徒です。中高部の生徒の4家庭にお世話になります。4月から7月まで、日本で学習されます。S2Bに在籍している生徒は、タイから来られたAFS生です。4月から来年2月まで滞在し、修学旅行にも一緒に参加します。学外の方にホストファミリーをしていただいています。お二人は、所属するクラスで一緒に授業を受けたり、他の学年の選択授業に参加したり、週に6時間、講師の建石ひとみ先生の日本語の授業を受けたりしています。先日は礼拝時に、自己紹介とそれぞれの母国の中学校や家族、友達についてプレゼンテーションをしてくれました。何事にも、明るく前向きに一生懸命取り組み、毎日元気に登校しています。本校の生徒たちも、留学生との交流を通して、異文化に出会い、お互いに良い刺激を与え合いながら、友情を育んでいます。

(中高部教諭 留学生係)

オーストラリア MLC 生

みなさん、はじめまして。私はオーストラリアから来ました。そして、8月13日に帰ります。留学生で、S1Bです。音楽を聞くことや絵をかくことが好きです。日本語が上手になりたいです。そして、日本を旅行したいです。どうぞよろしくお願いします。

タイ AFS 生

みなさん、こんにちは。わたしはAFSのりゅうがくせいです。S2Bです。10かげつにほんにいます。にほんごをべんきょうしにきました。にほんをいろいろりょこうしたいです。よろしくおねがいします。

**J1 デイキャンプ****大阪水上隣保館訪問**

高等学部 2年生

中高部では毎年、新入生を対象に入学式前にJ1デイキャンプという行事を実施しています。キャンプでは中高部内でのオリエンテーリング、語り合い、ゲーム、6年間の目標決めなどの活動をおこなっています。これらの活動を通して、新入生が中高部生活を共にする仲間と親しくなってもらうこと、少しでも不安を取り除き良いスタートを切ってもらうことを目標としています。そのような思いを胸にJ3からS3のキャンプカウンセラーたちが前年度から心を込めて準備を進めてきました。そして、今年も桜満開の下、緊張した様子の新入生149名を迎えてJ1デイキャンプが始まりました。新入生同士が互いの名前を呼び合いながらオリエンテーリングやゲームを楽しむ姿やカウンセラーの話に真剣に耳を傾ける姿、晴天の下で昼食後に同級生やカウンセラーと芝生を駆け回って遊ぶ姿などが見られ、有意義な時間を過ごすことができました。キャンプ牽引役のS3、S3をサポートして準備に励んでくれたJ3からS2のカウンセラーに感謝します。カウンセラーたちによる手書きメッセージ付きのプログラムが届いたことがとても嬉しかったという新入生からの声が多くあったことを最後に記しておきます。

(ディレクター)

皆さんは『施設にいる子どもたち』と聞いて、何を考えますか?「可哀想」「私たちとは違う子」そんな風に思う人は少なくないと思います。実際、私も水上隣保館訪問に参加する前はそのような印象を持っていました。しかし、何度も子どもたちと遊ぶうちに、そのような印象は私が勝手に決めつけてしまっていたものだったということに気がつきました。彼らはよく笑い、よく食べ、よく遊ぶ、どこにでもいる子どもたちと全く変わりありませんでした。このようなことは、何も『施設にいる子どもたち』にだけ当てはまるだけではないと思います。私たちは他人を、所属している団体やグループ、あるいはその人が持っている肩書きなどで判断してしまうことがあります。もちろんそういうものが人をつくる要素であることは事実ですし、全く関係がないということはないでしょう。しかし人と関わる上で本当に大切なものはそこにはないだろうと思います。肩書きなどを一度忘れて、その人自身を個人としてみてみること。それこそが一番大事なことではないのでしょうか。グローバル化が進んでいる世の中で、私たちは様々な人と関わる機会が増えています。そんな現代だからこそ、人を個人としてみることが大切になってくると思うのです。皆さんも人と出会ったとき、まずは一度勝手なイメージは捨てて、その人と向き合ってみてください。それが人と分かり合うための第一歩になると思います。

(2018年4月21日実施。参加生徒20名。引率教員3名。)

## 春の子ども会報告

去る4月28日に春の子ども会が開催されました。春の子ども会は近隣の児童養護施設で暮らす子どもたちと神戸女学院・関西学院の高校生とが一日を過ごす伝統ある行事です。今回は5施設の子どもたちを招待し、神戸女学院を会場として開催されました。

本校生徒と関西学院の生徒たちとが4ヶ月余りにわたる入念な打ち合わせと準備を重ね、満を持して迎えたこの日は、絶好の子ども会日和でした。9時40分に賑やかな雰囲気の中、開会式がおこなわれ、関西学院グリー部の迫力満点のコーラス、そして神戸女学院ESSとプラスバンド部による華やかなダンスと演奏を満喫しました。その後、午前中はグラウンドにて思い切り羽を伸ばし、お昼には藤棚前で本校食堂の方が作ってくださったお弁当に舌鼓を打ちました。午後は中高部1号館にて各種ゲームに興じ、16時前には子どもたち全員が、高校生に付き添われ、たくさんのお土産を持って笑顔で帰路につきました。

春の子ども会は、子どもたちのみならず、本校や関西学院の生徒たちにとって最も楽しみな行事の一つです。満面の笑顔が絶えない、素敵な一日となつたことに感謝して「報告」とさせていただきます。

なお、当日の引率教員は6名でした。

(高等学部自治会顧問)

## 2018年度 中高部体育祭

6月5日に2018年度体育祭を開催いたしました。

今年も、1学期早々から体育祭の準備と練習が始まり、熱心に練習を重ねる生徒、円滑な進行のために話し合いと準備を重ねる生徒の姿が見られました。

今年の体育祭は、予行、本番の両日とも天候が危ぶまれる中での開催となりました。予行当日は午後から雨が降るという予報でしたから、ほとんどの競技の練習はおこなわらず、選手の招集と誘導、備品の確認を中心に進めました。「例年通りおこないたい」という気持ちもあったかと思いますが、生徒たちは冷静に「今この状況での最善の方策」を考えながら進めてくれました。

体育祭当日も曇り空の中での実施となりました。予行で十分な確認ができませんでしたが、体育祭を成功させようという生徒たちの思いが実り、滞りなく、プログラムを進行することができました。

礼拝、開会式に続いて、午前中は、綱引き、玉入れ、棒引き、200m競走、登校競争、人生レース、DEKAパンレース、棒上帽子争奪戦をおこない熱い闘いが繰り広げられました。午後からは、学年対抗パフォーマンス、応援合戦、むかで競争、600mリレー、騎馬戦がおこなわれました。閉会式では、成績発表と表彰、閉会の辞、閉会宣言がおこなわれ、熱い体育祭の一日が終わりました。

今年の体育祭も多くの方々にご協力、お力添えいただき、無事に終えることができました。この場を借りてお礼申し上げます。

優勝：ゑ組

学年パフォーマンス優勝：S3

(体育祭企画実行委員会顧問)

## &lt;課外活動紹介&gt;

[クラブ]

## J 新体操部

新体操部は1年生から3年生まで合わせて21人で、年に5回ある試合に向けて日々練習しています。新体操には個人競技と団体競技があり、私たちは主に団体競技を練習しています。今はクラブという種目ですが、2年に1度種目が変わるために、次はリボンになります。

創部からまだ10年もたっておらずまだまだ未熟ですが、新体操だけでなくバーレッスンやダンスも取り入れて、県大会優勝を目指して頑張っています。試合で自分の力を全て出し切れた時の達成感は、厳しい練習を頑張ってきたからこそ味わえる大切なものです。これからもお互いに切磋琢磨し合いながら成長できるクラブにしていきたいと思います。

(J 新体操部顧問)

[クラブ]

## J 軽音楽部

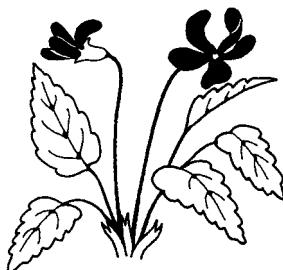
J 軽音楽部は28名の部員で年6回の舞台に向けて活動しています。ほとんどが初心者の状態から始めるので、お互いに教えながら練習をしています。年間を通して、様々な楽曲を取り組むことで、演奏するまでは気づかなかったようなことまで理解できるようになっていると思います。

クラブの特色として曲ごとにメンバーを変えるユニット制を採用しており、違うメンバーとの演奏を楽しんでいます。

合宿は夏休みに2回実施し、ライブハウスを借りて発表会をおこなっています。

とても楽しく、フレンドリーなクラブです。

(J 軽音楽部顧問)



[クラブ]

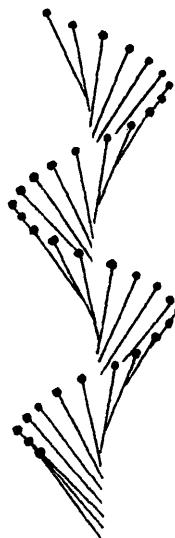
## S茶道同好会

S茶道同好会は毎週金曜日の放課後、構内の松風庵というお茶室で活動しています。学外からお越し頂いている4名の先生方の熱心なご指導のもと、1年生6名、2年生8名の合計14名の部員が日々裏千家流茶道のお稽古に励んでいます。クラブ活動以外の主な活動には、日頃のお稽古の成果を披露する文化祭のお茶席での点茶、愛校バザーでの寄贈品の販売、夏休みの合宿などがあり、これらの活動は部員同士の親睦を深める良い機会にもなっています。

部員に茶道を嗜もうと考えた理由を尋ねると、自分で点てたお茶を季節のお菓子といっしょにいただけるからという答えとともに、日本の伝統文化の一つである茶道を学ぶことを通してきちんとした行儀作法を身につけたかったからという答えも返ってきました。普段は大変活発な部員も、所作の一つ一つを型として身につけることで自ずと美しい立居振舞ができるようになるという茶道の魅力を十分に理解しているようです。

日常の喧騒から離れ、週末の放課後のひと時、お茶室という異空間に身を委ねる。鉄瓶でお湯の沸く音に耳を澄ませながら丁寧にお茶を点てる。和菓子やお茶道具、掛け軸や生け花などのお茶室の設えから季節の風情を感じる。日々慌ただしく過ごしている高校生にとって、お茶の鮮やかな色と香りに包まれる時間は、心を静かに落ち着かせ、整えることのできるかけがえのない安らぎの時間なのだと思います。S茶道同好会のますますの発展を願ってやみません。

(S茶道同好会顧問)



## 〈学院日誌〉

|          |                               | 5月23日(水) |                            |
|----------|-------------------------------|----------|----------------------------|
| 4月1日(日)  | 臨時理事会                         |          | 理事会                        |
| 4月2日(月)  | 新任教職員就任式<br>オリエンテーション<br>墓前礼拝 |          | 評議員会<br>理事会及び評議員会メンバーとの懇談会 |
| 4月3日(火)  | 大学・大学院入学式<br>学生寮入寮式           | 5月26日(土) | 愛校バザー                      |
| 4月4日(水)  | 中高部教員会議                       | 5月30日(木) | 中高部教員会議                    |
| 4月5日(木)  | 中学部入学式                        | 6月5日(火)  | 中高部体育祭                     |
| 4月9日(月)  | 高等学部入学式<br>中学部・高等学部始業式        | 6月13日(水) | 中高部教員会議                    |
| 4月18日(水) | 中高部教員会議                       | 6月15日(金) | 教授会                        |
| 4月20日(金) | 教授会                           | 6月17日(日) | オープンキャンパス                  |
| 4月25日(水) | 理事会                           | 6月27日(水) | 理事会                        |
| 4月27日(金) | 院長就任式                         | 7月12日(木) | 神戸女学院教育振興会役員会<br>中高部教員会議   |
| 4月30日(月) | 教授会研修会                        | 7月20日(金) | 中高部教員会議                    |
| 5月9日(水)  | 中高部教員会議                       | 7月25日(水) | 教授会                        |
| 5月18日(金) | 教授会                           | 7月27日(金) | 理事会                        |
| 5月22日(火) | 創立者記念日<br>創立者記念日墓前礼拝          | 7月29日(日) | 学院リトリート<br>オープンキャンパス       |

## 目

|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| 院長就任の辞                              | 1  |
| KCC だより                             | 3  |
| 第14代院長就任式報告                         | 5  |
| 愛校バザー報告                             | 5  |
| 神戸女学院教育振興会寄付金                       | 16 |
| 神戸女学院2017年度決算報告及び2018年度事業計画         | 17 |
| 史料室の窓・デフォレスト先生の高等教育構想               | 23 |
| キャンパスお気に入りの場所                       | 24 |
| 大学報告                                |    |
| セキュリティ強化プロジェクト                      | 25 |
| 交通広告(「女は大学に行くな、」)を掲出                | 25 |
| 公認心理師養成カリキュラムの設置                    | 26 |
| 神戸学院大学&サム・ヒューストン州立大学合併オーラ(ディビエヌアス)  | 27 |
| 女性とキャリア講演会                          | 27 |
| Exchange Student Becomes A College! | 28 |
| 映画「センセイ君主」ロケをおこないました                | 28 |
| 新社交館2階食堂のテーブル・椅子更新                  | 29 |
| 大学春季宗教強調日礼拝(創立者記念日礼拝)               | 32 |
| 2017年度 神戸女学院大学図書館報告                 | 32 |
| 2018年度 大学・大学院入学試験結果概要               | 33 |
| 2018年度 在籍学生数                        | 33 |
| 2017年度 就職決定状況                       | 34 |

## 次

|                          |    |
|--------------------------|----|
| 2018年度 キャリアサポートプログラム(予定) | 36 |
| 受入れ留学生報告                 | 37 |
| 中期英語留学報告                 | 39 |
| 中期海外研修報告                 | 39 |
| 語学研修報告                   | 41 |
| 私の研究                     | 43 |
| ゼミ紹介                     | 44 |
| 課外活動紹介                   | 45 |
| 中高部報告                    |    |
| 第7回高校生スピーチコンテストに出場して     | 46 |
| 手作り絵本コンクールへの挑戦           | 46 |
| JAXA エアロスペーススクールに参加して    | 47 |
| 中高部図書室報告                 | 47 |
| 2018年度中学部入学試験結果報告        | 47 |
| 2018年度中高部受け入れ留学生         | 52 |
| J1 デイキャンプ                | 56 |
| 大阪水上博物館訪問                | 56 |
| 春の子ども会報告                 | 57 |
| 2018年度 中高部体育祭            | 57 |
| 課外活動紹介                   | 58 |
| 学院日誌                     | 60 |

下記ページは個人情報保護等のため掲載しておりません。ご了承ください。

6, 14, 16, 22, 30, 48, 50, 53~55